



## 検証済みプロファイル : Cisco Prime Infrastructure から Cisco DNA Center への移行

ソリューションの概要 3

Cisco Prime Infrastructure から Cisco DNA Center への移行 3

ハードウェアとソフトウェアの仕様 6

ソリューショントポロジ 7

ソリューションのユースケース 8

スケールマトリックス 10

ソリューションの基調講演 10

テンプレート 32

コンプライアンス 37

レポート 40

ソフトウェアイメージの管理 42

AP 設定ワークフロー 45

Cisco ISE および CMX の移行 47

ワイヤレスコントローラの HA とモビリティ 49

インテリジェントキャプチャ 51

コンフィギュレーションアーカイブ 53

移行後の Cisco Prime Infrastructure からのデバイスの削除 56

規模とパフォーマンス 58



## ソリューションの概要

このガイドは、Cisco Prime Infrastructure のお客様が Cisco DNA Center に移行するための検証済みリファレンスとして機能します。このガイドでは、エンドツーエンドの要件チェックリスト、準備アセスメント、移行ツールの詳細、および移行後の day-*n* 運用ガイダンスを提供します。

このガイドの対象読者には、Cisco Prime Infrastructure から Cisco DNA Center へのエンタープライズ ネットワークの移行を担当する技術スタッフが含まれます。



---

(注) cisco.com でこのガイドを表示している場合は、図のいずれかをクリックすると、フルサイズバージョンが表示されます。

---

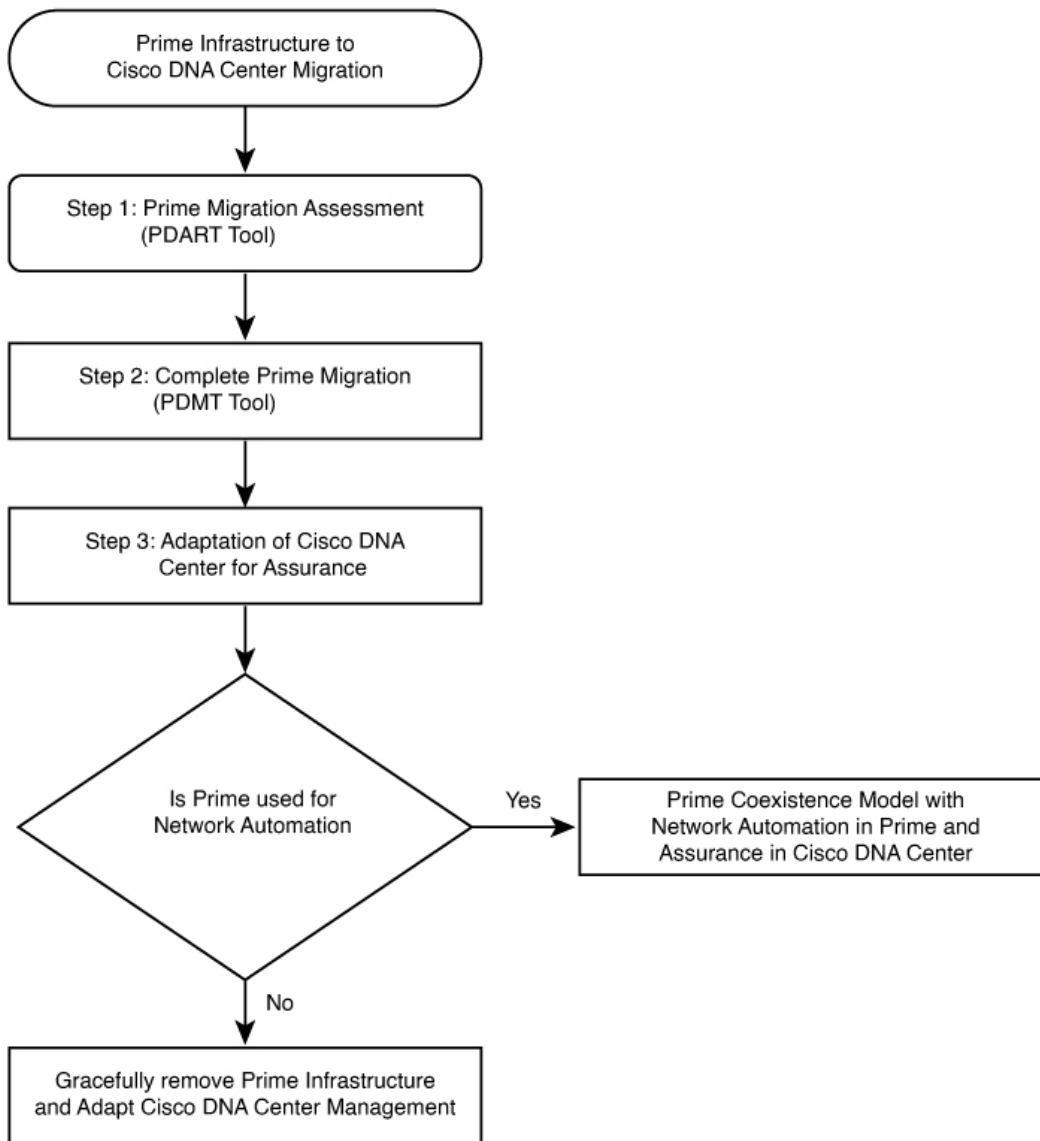
## Cisco Prime Infrastructure から Cisco DNA Center への移行

Cisco Prime Infrastructure は、キャンパスネットワークの効果的な監視を可能にする重要な管理プラットフォームとして機能してきました。ただし、Cisco DNA Center によってもたらされる利点と、インテント、セキュリティとアシュアランス、およびサードパーティ製デバイスの統合によってキャンパスやブランチをオーケストレーションするというアプローチは、Cisco Prime Infrastructure の機能を上回ります。

シスコでは、サイト、デバイス、マップ、設定、CLI テンプレート、Cisco ISE、およびシスコのコネクテッドモバイルエクスペリエンス (CMX) を Cisco Prime Infrastructure から Cisco DNA Center に移行するプロセスを合理化するために、Prime Data Migration Tool (PDMT) と呼ばれるソリューションを作成しました。PDMT は、Cisco Prime Infrastructure と Cisco DNA Center の間のシームレスな共存を可能にし、Cisco DNA Center に段階的に移行する柔軟性を提供します。

このガイドでは、Cisco Prime Infrastructure と Cisco DNA Center の間の共存モデルに焦点を当てています。共存モデルでは、ネットワークデバイスが Cisco Prime Infrastructure と Cisco DNA Center の両方で管理されます。Cisco Prime Infrastructure はデバイスの自動化に使用され、Cisco DNA Center は主にアシュアランスおよびその他の非インテントベースの自動化に使用されます。ワイヤレスコントローラの自動化は、Cisco Prime Infrastructure から実行されます。これは、Cisco DNA Center によるワイヤレスコントローラのブラウフィールド学習が利用可能になるまでの一時的なソリューションです。

以下のセクションでは、Cisco Prime Infrastructure から Cisco DNA Center への移行を完了するためのエンドツーエンドのフローについて説明します。



## 手順

**ステップ 1** Cisco Prime Infrastructure の展開の使用状況と Cisco DNA Center 機能を評価します。

Cisco Prime Infrastructure Cisco DNA Center Assessment & Readiness Tool (PDART) は、Cisco Prime Infrastructure を分析し、次のような詳細情報を提供します。

- Cisco Prime Infrastructure の使用状況の包括的な概要
- ネットワークデバイスの Cisco DNA Center 互換性
- 使用例

- レポート
- ワイヤレステンプレート
- ネットワークの規模
- 推奨されるアプライアンス

**ステップ 2** データ移行の準備をします。

Cisco PDART レポートの推奨事項に従ってください。必要に応じて、Cisco Prime Infrastructure の最新バージョンへのアップグレード、ネットワーク階層の最適化、Cisco DNA Center アプライアンスのオンボーディングなどを実行します。

**ステップ 3** データ移行を開始し、完了します。

Cisco Prime Infrastructure 内のデータ移行ツール（共存ツール）を使用すると、ネットワークを簡単かつ安全に Cisco DNA Center に移植できます。

**ステップ 4** Cisco DNA Center を導入します。

Cisco DNA Center は、自動化と可視性を向上させ、人工知能（AI）主導の分析を提供するので、ネットワークを正常な状態に保ち、運用コストを削減するために役立ちます。

Cisco DNA Center は、AI を活用してネットワーク運用を接続、保護、および自動化する強力な管理システムです。Cisco DNA Center は、Cisco Catalyst ネットワーク インフラストラクチャの管理を簡素化し、有線ネットワークとワイヤレスネットワークの全体で一貫したユーザーエクスペリエンスを保証します。これにより、エンタープライズ規模のセキュアでシームレスな信頼性の高い接続がユーザーとアプリケーションの間に提供されます。

## Cisco Prime Infrastructure と Cisco DNA Center のユースケースの比較

次の表に、Cisco Prime Infrastructure と Cisco DNA Center のユースケース概要の比較を示します。

機能	Cisco Prime Infrastructure	Cisco DNA Center
Cisco Prime Infrastructure によるアラームとインシデントのモニタリング。モニタリングとトラブルシューティング用の Cisco DNA アシユアランス	サポート対象	サポート対象
Device 360、Client 360、App 360	サポート対象	サポート対象
マップ	サポート対象	サポート対象

機能	Cisco Prime Infrastructure	Cisco DNA Center
ユーザー CLI テンプレート	サポート対象	サポート対象  (注) ワイヤレステンプレート設定のプッシュは、Cisco Prime Infrastructure から実行されます。移行された有線ユーザー CLI は、Cisco DNA Center から使用できます。
コンプライアンス	サポート対象	サポート対象
レポート	サポート対象	サポート対象
SWIM	サポート対象	サポート対象
Cisco Prime の Lightweight アクセスポイント/Cisco DNA Center の AP 設定ワークフロー	サポート対象	サポート対象
不正 AP	サポート対象	サポート対象
aWIPS	サポート対象	サポート対象
コンフィギュレーションアーカイブ	サポート対象	サポート対象
Cisco ISE と CMX の統合	サポート対象	サポート対象
HA の設定	サポート対象	サポート対象
モビリティトンネルの設定	サポート対象	サポート対象
インテリジェントキャプチャ	未サポート	サポート対象
機械推論エンジン	未サポート	対応

## ハードウェアとソフトウェアの仕様

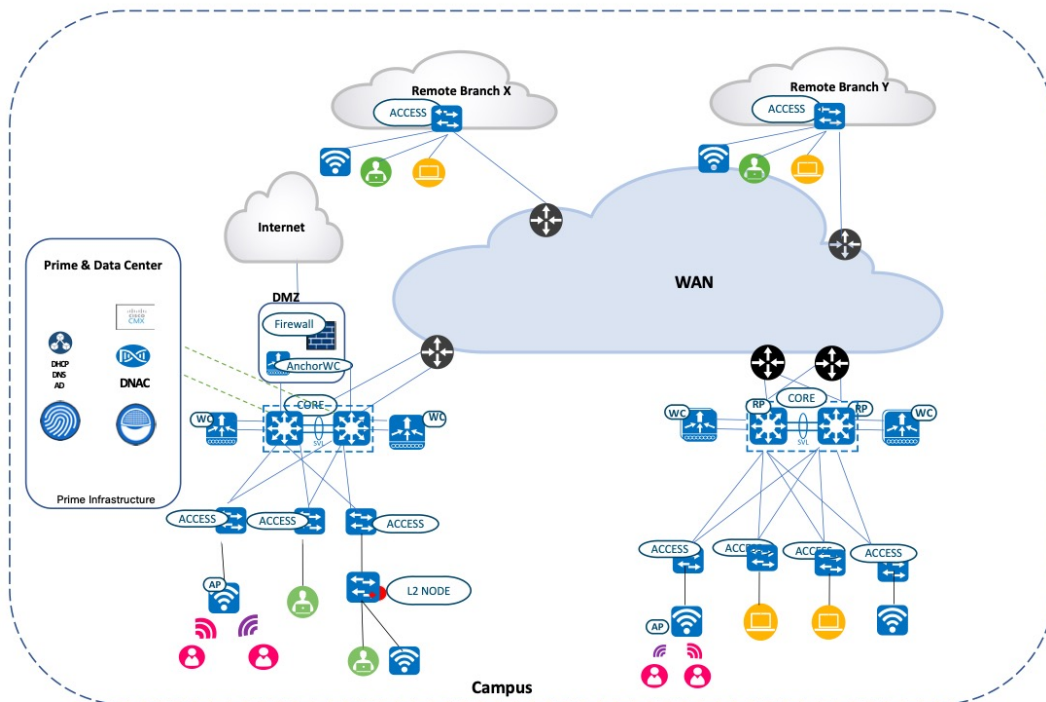
ソリューションは、次の表に示すハードウェアとソフトウェアで検証されています。

ロール	モデル名	ハードウェア プラットフォーム	ソフトウェア バージョン
Cisco DNA Center	DN2-HW-APL	Cisco DNA Center アプライアンス	Cisco DNA Center 2.3.5.5

ロール	モデル名	ハードウェア プラットフォーム	ソフトウェア バージョン
アイデンティティ管理、 RADIUS サーバー	ISE-VM-K9	Cisco Identity Services Engine 仮想 アプライアンス	Cisco Identity Services Engine 3.1 パッチ 6
Cisco Prime Infrastructure	Prime Infrastructure	Cisco Prime Infrastructure 仮想ア プライアンス	3.10.4
PDMT	Prime Data Migration Tool	Cisco Prime Infrastructure 仮想ア プライアンス	PI 3.10.4 Prime Data Migration Tool Update 05.x
Cisco コラプストコアノード	C9500-32C C9500-24Q	9500 シリーズ スイッチ	17.9.4a
Cisco アクセスノード	C9300-48P C9300-24P C9407R C9200-48P 3850-48U	Cisco Catalyst 9300/3850 シリー ズ スイッチ	17.9.4a
シスコ ワイヤレス コントロー ラ	C9800-40-K9 C9800-L-K9	Cisco Catalyst 9800 ワイヤレス コントローラ	17.9.4a
Cisco AireOS ワイヤレスコント ローラ	AIR-CT5520-K9	Cisco 5520 ワイヤレスコント ローラ	AireOS 8.10.162.0
Cisco アクセス ポイント	9120-AXI 9130-AXI 2800 3800	Cisco Catalyst/Cisco Aironet アク セスポイント	17.9.4a
CMX	—	—	10.6.3

## ソリューション トポロジ

次の図は、ソリューションのトポロジを示しています。



## ソリューションのユースケース

次の表に、ソリューションのユースケースを示します。

カテゴリ	機能	使用例
PDART	移行ツール	インストール、実行、ユースケースの検証、拡張、レポート、デバイスの互換性
PDMT	移行ツール	インストール、ロケーショングループの検証、マップ、インベントリ、デバイスログイン情報、CLIテンプレート、CMX および Cisco ISE が Cisco DNA Center に移行される



カテゴリ	機能	使用例
保証	保証	デバイス 360
		Client 360
		App 360
		AAA、DHCP などのネットワークサービス
	マップ	AP オーバーレイが表示されたフロアマップビュー
		ヒートマップ ワイヤレス カバレッジ
		マップを使用した干渉
	MRE	有線ネットワークイベントの MRE
		AAA イベントなどのワイヤレスクライアントの MRE
	不正および aWIPS	WLAN での脅威の検出と軽減
テンプレート (Template)	ユーザー CLI テンプレート	設定プッシュ用のユーザー CLI テンプレート
コンプライアンス	コンプライアンス	設定変更に関するコンプライアンスのスタートアップ設定と実行中の設定の比較
レポート	レポート	AP の概要と AP の使用状況 クライアントのセッションと数 クライアントトラフィックおよびトラフィック ストリームメトリック 無線パフォーマンスおよび AP RF 品質 インベントリ ワイヤレス稼働時間
SWIM	SWIM	ネットワークスイッチ、ワイヤレスコントローラのイメージのアップグレードまたはダウングレード
AP 設定ワークフロー	AP ワークフロー	AP 名の変更、無線パラメータの変更、無線タスクのスケジュールなどの AP ワークフローの実行
Cisco ISE および CMX の移行	Cisco ISE の移行	Cisco ISE および CMX の設定と統合
	CMX の移行	
ワイヤレスコントローラの HA とモビリティ	ワイヤレスコントローラの HA とモビリティ	Cisco DNA Center の自動化による C9800 の HA とモビリティの設定

カテゴリ	機能	使用例
インテリジェントキャプチャ	ICAP	AP およびクライアントのトラブルシューティングのための AP、クライアントキャプチャの実行
コンフィギュレーションアーカイブ	コンフィギュレーションアーカイブ	ネットワーク デバイスアーカイブ設定の表示、スケジュール
Cisco Prime からのデバイスの削除	Cisco Prime Infrastructure の移行	移行後の Cisco Prime Infrastructure からのデバイスの削除

## スケールマトリックス

ソリューションのテストでは、次の表に示すスケールの数値について確認しました。Cisco DNA Center アプライアンスのスケールの数値を確認するには、[Cisco DNA Center のデータシート \[英語\]](#) を参照してください。

カテゴリ	値
デバイスインベントリ	1000
マップがあるサイトの数	450 のサイトと 5 つのフロア
Cisco DNA Center アプライアンス	1
建物とフロアの数	450
ワイヤレスコントローラの数	4
インベントリ内の AP の数	2500
エンドポイントの数	(10,000 のワイヤレス) + (1000 の有線)
SSID の数	10
ユーザー CLI テンプレートの数	100

## ソリューションの基調講演

### Cisco Prime Infrastructure Cisco DNA Center Assessment and Readiness Tool

Cisco PDART は、Cisco Prime Infrastructure の展開を分析し、Cisco DNA Center が現在の展開をサポートしているかどうかを評価します。

Cisco PDART の詳細については、『[Use PDART - a Cisco DNA Center Readiness Tool](#)』を参照してください。

- Cisco PDART ファイルを Cisco Prime Infrastructure にコピーします。

```
(base) USER-M-32NQ:Downloads USER$ scp pdart_3_10_4 root@209.165.201.0:/
root@209.165.201.0's password:
pdart_3_10_4                                     100% 14MB
 945.3KB/s  00:15
(base) USER-M-32NQ:Downloads USER$
```

- ファイルを実行可能に変更します。

```
[root@USER-prime /]# chmod 755 pdart_3_10_4
```

- 次のコマンドを実行します。

```
[root@USER-prime /]# ./pdart_3_10_4
```

```
#####
###                               ###
###      Welcome to Cisco PDART   ###
###              version: 3.02    ###
###                               ###
#####
###

##
## Script Start Time: 2023-07-07_02:47:04
##

##
## Script End Time: 2023-07-07_02:51:30
##
```

```
*****
Cisco PDART Tool has successfully completed.
```

CLI で PDART を実行すると、PDF レポート、実行ログ、および JSON ファイルが次の場所に出力されます。

*PDART tarfile - /localdisk/defaultRepo/pdart.d/PDART\_2023-07-07\_02-47-04.tar.gz*

```
[root@USER-prime /]#
```

- PDF レポートを確認するには、レポートをファイルサーバーまたはデスクトップにコピーします。

```
[root@USER-prime ~]# scp /localdisk/defaultRepo/pdart.d/PDART_2023-07-07_02-47-04.tar.gz
admin@209.165.201.0.247:/home/admin/
admin@209.165.201.0.247's password:
PDART_2023-07-07_02-47-04.tar.gz                                     100% 704KB 11.0MB/s 00:00

[root@USER-prime ~]#
```

移行を開始する前に、移行の準備状況とサポートされているデバイス、ユースケース、およびレポートを慎重に評価することをお勧めします。この慎重な評価は、移行前に、サポートされている機能とサポートされていない機能の全体像を確実に把握するために役立ちます。

次の図は、Cisco PDART によって生成される PDF レポートを示しています。

## Cisco PDART Results - v3.02

The Cisco PDART (Cisco Prime Infrastructure DNA Center Assessment & Readiness Tool) analyzes your Cisco Prime Infrastructure and assesses whether Cisco DNA Center supports the current deployment. It summarizes the deployment in this report and performs certain health checks, without affecting any of the devices. This PDF is auto generated by the tool and summarizes all the checks. No sensitive information is captured. Thank you for running it, please reach out to pdart-tool-support@cisco.com for any feedback.



### Cisco DNA Center Ready

Current Cisco Prime Infrastructure Version : 3.10.0

DNAC Version Assessed : 2.3.5

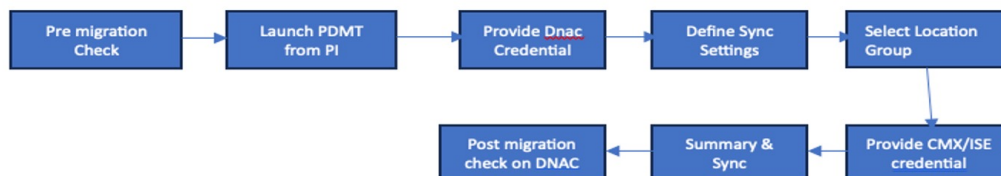
Script Execution Time

Migration Readiness

## Cisco Prime Data Migration Tool

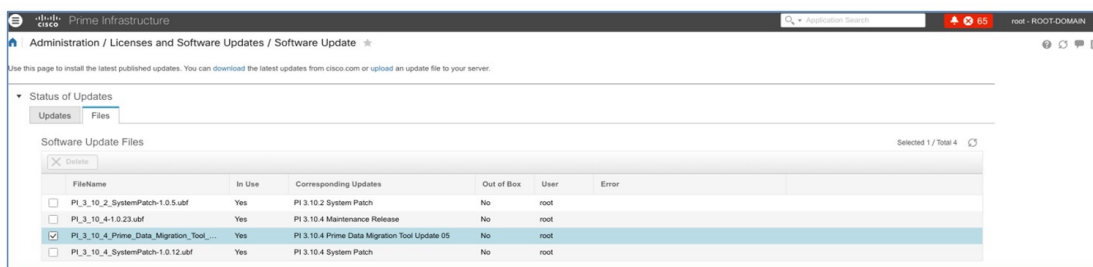
Cisco Prime Data Migration Tool (PDMT) または Cisco Prime Infrastructure 内の共存ツールを使用して、ネットワークを簡単かつ安全に Cisco Prime Infrastructure から Cisco DNA Center に移植できます。PDMT を使用する場合、データは、Cisco Prime Infrastructure から Cisco DNA Center に送信されますが、Cisco DNA Center から Cisco Prime Infrastructure には送信されません。つまり、ネットワーク階層、マップ、およびデバイスは、Cisco DNA Center 内で変更が加えられても Cisco Prime Infrastructure では変更されません。

デバイス、ロケーショングループ、関連するサイトマップ、ユーザー定義 CLI テンプレート、および CMX データを Cisco Prime Infrastructure から Cisco DNA Center に移行し、一元化されたダッシュボードでエンタープライズネットワークを管理できます。

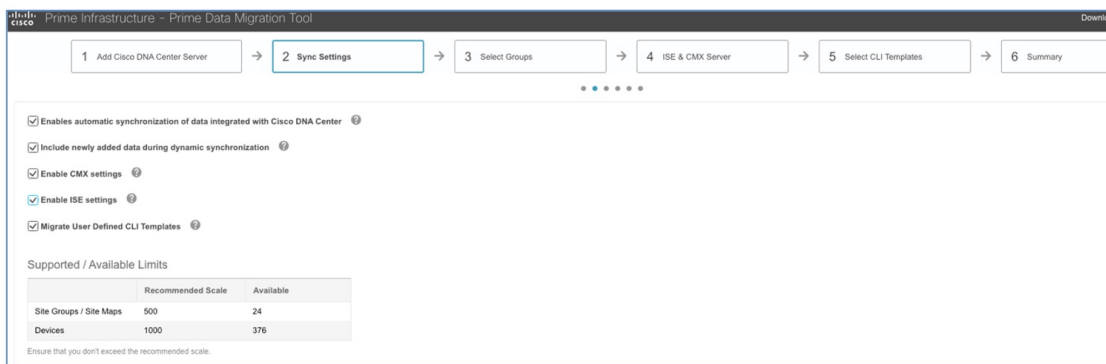
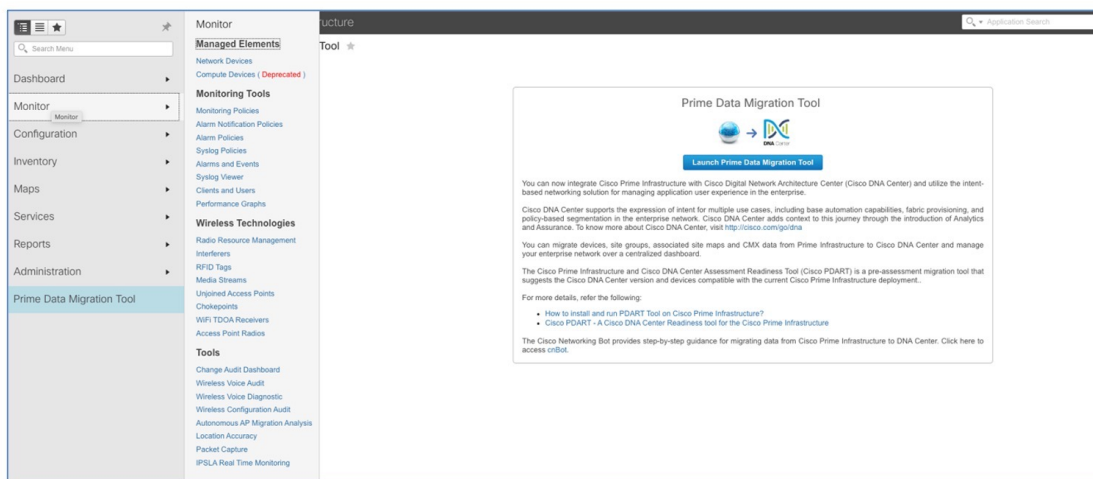


PDMT の詳細については、『[Cisco Prime Infrastructure to Cisco Digital Network Architecture Center Prime Data Migration Guide](#)』を参照してください。

PDMT をインストールします。



次の図は、Cisco Prime Infrastructure の PDMT 起動画面を示しています。



キーポイント：

- Prime Infrastructure から Cisco DNA Center にすでに移行されている、グループおよびデバイスに関する一連のデータを、変更後に自動的に同期させるには、[Enables automatic synchronization of data integrated with the Cisco DNA Center] チェックボックスをオンにします。
- 動的同期時に新しく追加されたグループや新しく追加されたデバイスがある場合、追加後に Prime Infrastructure から Cisco DNA Center に自動的に移動させるには、[Include newly added data during dynamic synchronization] チェックボックスをオンにします。

動的同期は、すでに移行されたデータの追加、更新、または削除操作をサポートせず、次のコンポーネントのデータを自動的に同期させません。

- マップ
  - CLI テンプレート
  - Cisco ISE サーバ
- CMX をフロアグループとともにプッシュするには、[Enable CMX settings] チェックボックスをオンにします。[Enable CMX settings] チェックボックスをオフにすると、CMX データは Cisco DNA Center サーバーにプッシュされません。



- (注)
- PDART ツールと PDMT (共存) ツールはどちらも Cisco Prime Infrastructure で実行するツールであり、Cisco DNA Center 側の管理の影響は受けません。
  - 共有チャンネルを介した移行中、Cisco Prime Infrastructure は Cisco DNA Center と次の項目を共有します。
    - マップ
    - トポロジ
    - デバイス
    - コンフィギュレーション
    - CLI テンプレート
  - 段階的に移行する場合は、Cisco Prime Infrastructure に加えられた動的な変更 (増分変更) を Cisco DNA Center と同期させることができます。これは一方向の同期であることに注意してください。Cisco DNA Center に変更を加えても Cisco Prime Infrastructure とは同期されません。
  - Cisco Prime Infrastructure ではロケーショングループやサイトグループに都市ロケーションが適用されていません。都市ロケーション情報がないサイトや階層を Cisco DNA Center に移行しようとする、移行が失敗します。
  - 移行プロセスを開始する前に、『[Cisco Prime Infrastructure to Cisco Digital Network Architecture Center Prime Data Migration Guide](#)』の重要な注意事項を確認してください。

## Cisco DNA アシユアランス

Cisco DNA アシユアランスは、シスコが開発した独自のネットワーク グラフ テクノロジーを使用します。このテクノロジーは、NetFlow、Application Visibility and Control (AVC)、DDI (DNS、DHCP、および IP アドレス管理)、Cisco ISE、RADIUS 情報、トポロジデータ、CMX、およびその他のデバイスメトリックなどのデータソースの組み合わせからデータを取得し、時間と場所を超えたユーザー、デバイス、アプリケーション、およびネットワークサービス間の相互関係のリアルタイムおよび履歴キャプチャを構築します。

Cisco Catalyst 9800 ワイヤレスコントローラは、Cisco Prime Infrastructure のテンプレートおよびモニタリングを使用した読み取り/書き込みと設定プッシュのために Cisco Prime Infrastructure によって管理されます。Cisco DNA Center は、アシユアランスのためにのみ使用されます。現時点では、共存モデルにおいてワイヤレスコントローラは、Cisco Prime Infrastructure と Cisco DNA Center の両方によってモニターされています。C9800 ワイヤレスコントローラがストリーミ

ングテレメトリデータをパブリッシュするために確立されるサブスクリプションチャンネルには、Cisco Prime Infrastructure と Cisco DNA Center の両方へのピアアドレスがあります。

テレメトリサブスクリプションを有線スイッチ（アクセス、コアなど）にプッシュするために、有線スイッチには、Cisco DNA Center インベントリでの NETCONF 検出が必要です。

有線テレメトリを有効にするには、次の操作を実行する必要があります。

- 移行後：NETCONF でデバイスを検出し、NETCONF ポート 830 でデバイスを編集します。
- NETCONF 検出後にテレメトリの再プッシュ/強制プッシュを実行します。



(注) 移行後、アシュアランスを正常に動作させるために、次のことを確認してください。

- ネットワークデバイスがサイトに正しく追加されている。
- インベントリでデバイスが管理対象状態になっている。
- デバイス可制御性およびテレメトリ設定（syslog、SNMP、NetFlow 収集など）が設定されている。
- デバイスが Cisco DNA Center から到達可能であり、ポートが SNMP、syslog、NetFlow、HTTPS などに対して開いている。

Cisco DNA Center への移行前：

```
9800-L-HYD-eWLC#show telemetry connection all
Telemetry connections

Index Peer Address          Port VRF Source Address      State  State Description
-----
192.0.2.0                   20830 0 209.165.201.0    Active Connection up

C9800-L-HYD-eWLC#sh telemetry ietf subscription summary
Subscription Summary
=====
Maximum supported: 128

Subscription  Total  Valid  Invalid
-----
All           30     30     0
Dynamic       0      0      0
Configured    30     30     0
Permanent     0      0      0
```

Cisco DNA Center への移行後、合計 116 のサブスクリプションが移行されます。

```

C9800-L-HYD-eWLC#show telemetry connection all
Telemetry connections

Index Peer Address          Port VRF Source Address      State  State Description
-----
192.0.2.0                   20830 0 209.165.201.0    Active Connection up
192.0.2.1                   25103 0 209.165.201.0    Active Connection up

C9800-L-HYD-eWLC#show telemetry ietf subscription summary
Subscription Summary
=====
Maximum supported: 128

Subscription  Total   Valid  Invalid
-----
All           116    116    0
Dynamic       0       0      0
Configured    116    116    0
Permanent     0       0      0

```

次の表では、Cisco Prime Infrastructure と Cisco DNA Center のアシュアランスユースケースを比較しています。

機能	Cisco Prime Infrastructure	Cisco DNA Center
正常性ダッシュボード	サポート対象	サポート対象
履歴トラブルシューティング	サポート対象	サポート対象
アラームおよびイベント	サポートあり	サポート対象 (問題およびイベント)
デバイス 360	サポート対象	サポート対象
Client 360	サポート対象	サポート対象
ネットワーク サービス	未サポート	サポート対象 (AAA、DHCP、および DNS)
アプリケーションの可視性	未サポート	サポート対象
マップ	サポート対象	サポート対象
不正および aWIPS	サポート対象	サポート対象
MRE	未サポート	サポート対象
レポート	サポート対象	サポート対象



機能	Cisco Prime Infrastructure	Cisco DNA Center
CMX 統合	サポート対象	サポート対象
インテリジェントキャプチャ	未サポート	サポート対象

Cisco DNA アシュアランス には次の利点があります。

- 問題が自動的に検出され、優先順位が付けられます。
- 手順ガイド付きのインスタント修復によって迅速に問題を解決できます。
- パフォーマンスが向上し、トラブルシューティングにかかる時間が短縮されます。

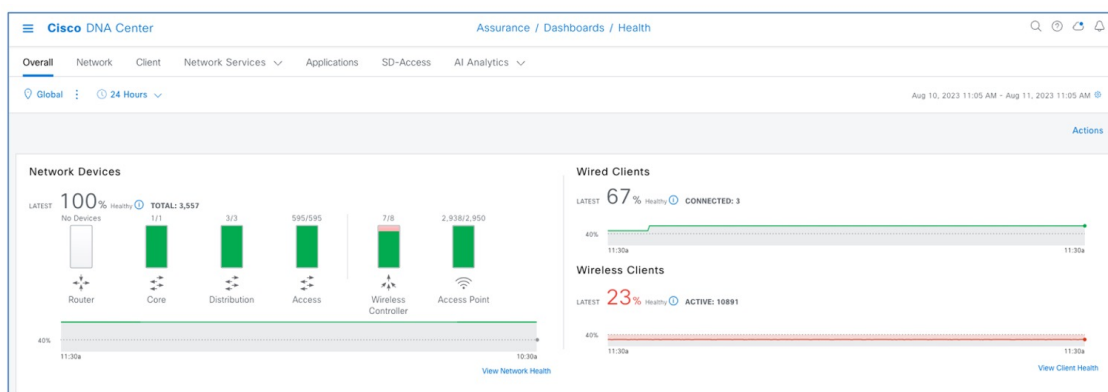
### Cisco DNA Center の Assurance 正常性ダッシュボード

Assurance ダッシュボードには、ネットワークに含まれるすべてのネットワークデバイスおよび有線またはワイヤレスクライアントの正常性の概要が示されます。Assurance ダッシュボードには上位 10 件のグローバルな問題が表示され、管理者は次の要素ごとにビューを拡張できます。

- 地理的なサイト
- デバイス リスト
- クライアントリスト
- トポロジ

接続不良のデバイスまたは通信の問題がハイライトされ、推奨される修復アクションが示されます。正常性スコアの計算方法はカスタマイズできます。

Assurance 正常性ダッシュボードを表示するには、**[Assurance] > [Health] > [Select Overall]** を選択します。



Cisco DNA Center で上位 10 件のグローバルな問題を表示するには、**[Assurance] > [Health] > [Select Overall] > [Top 10 Issue]** を選択します。

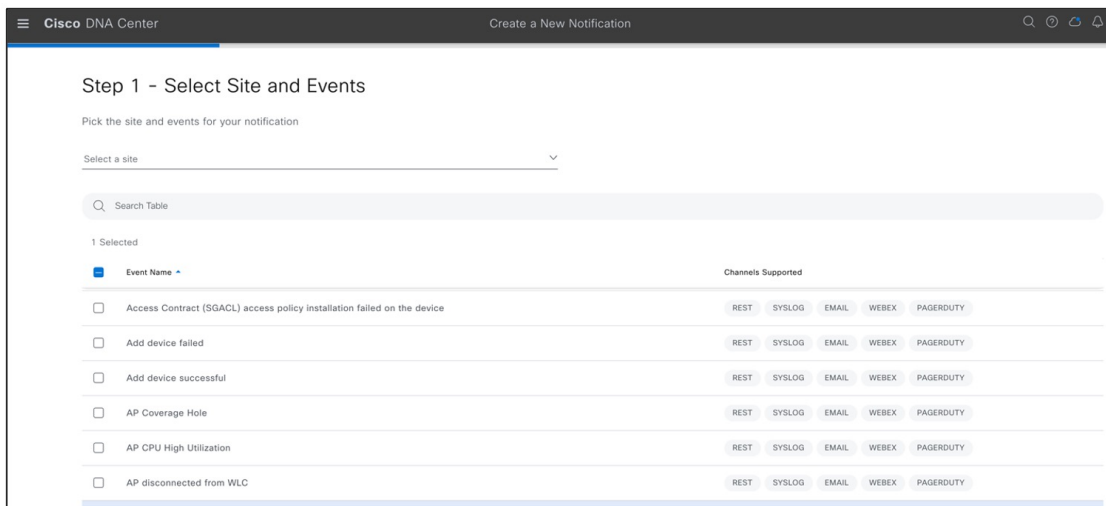
Priority	Issue Type	Device Role	Category	Issue Count	Site Count (Area)	Device Count	Last Occurred Time
P3	Poor RF (5 GHz) on a floor	ACCESS POINT	Availability	3	1	3	Aug 11, 2023 10:30 AM
P3	Interface is Flapping On Network Device	DISTRIBUTION	Device	1	1	1	Aug 11, 2023 10:30 AM
P3	Device time has drifted from Cisco DNA Center	DISTRIBUTION	Device	1	1	1	Aug 10, 2023 1:43 PM
P3	Device time has drifted from Cisco DNA Center	ACCESS	Device	2	1	2	Aug 10, 2023 12:47 PM
P3	High input/output discard on Switch interfaces	UNKNOWN	Connected	1	1	1	Aug 10, 2023 11:57 AM

Cisco DNA Center で問題のステータスを変更するには、**[Assurance]** > **[Dashboard]** > **[Issues & Events]** を選択します。

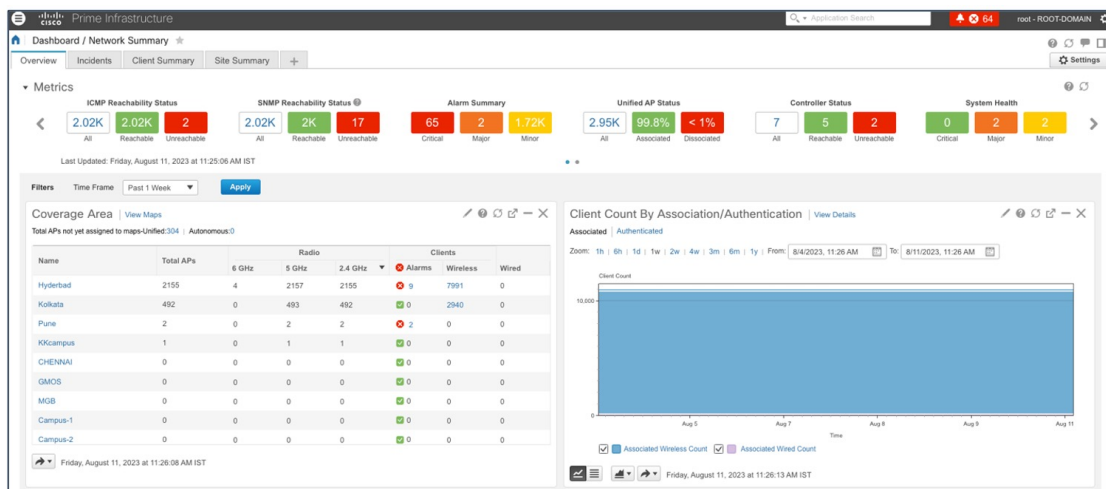
syslog に基づいてユーザー定義の問題を作成するには、**[Assurance]** > **[Settings]** > **[Issue Settings]** を選択します。

Cisco DNA Center イベント通知を使用すると、複数のポイントで発生する選択したイベントの詳細を配信する1つの通知内に複数のチャンネルを関連付けることができます。

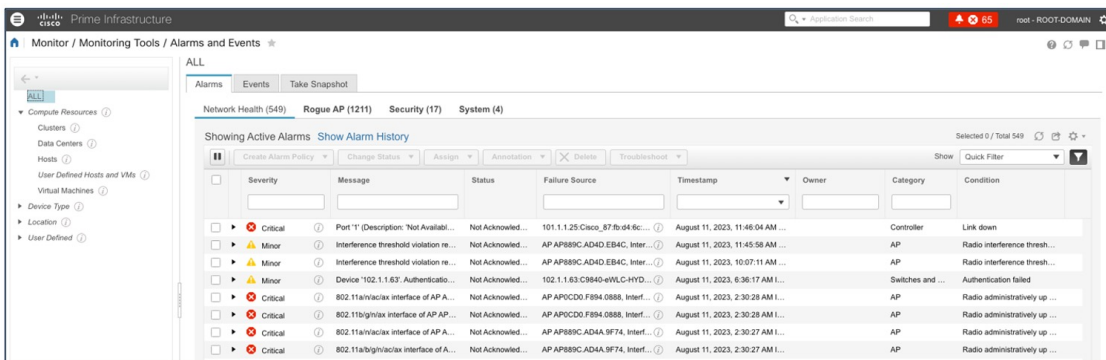
イベント通知チャンネルを表示するには、**[Platform]** > **[Developer toolkit]** > **[Event Notification]** を選択します。



Cisco Prime Infrastructure の正常性ダッシュボードを表示するには、**[Dashboard]** > **[Network Summary]** > **[Overview]** を選択します。



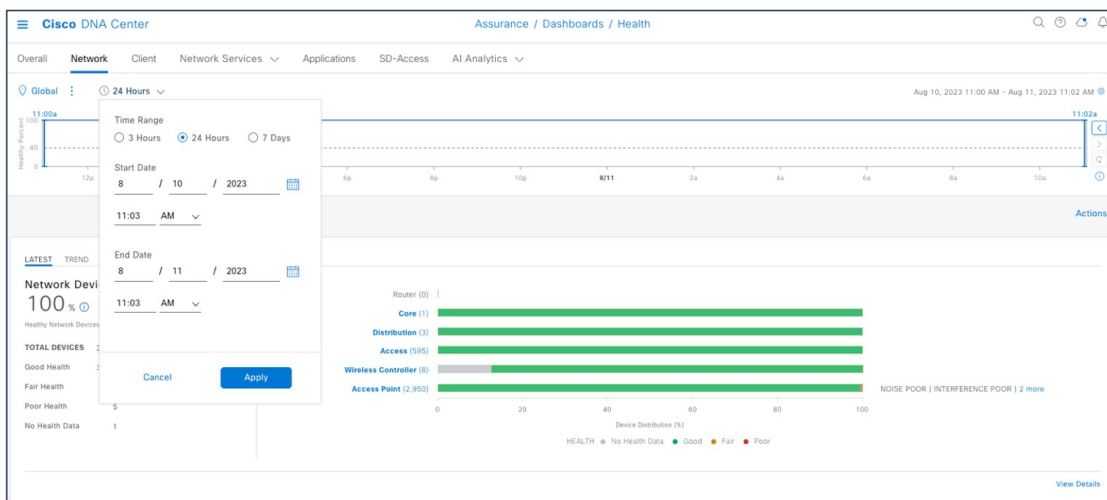
Cisco Prime Infrastructure の [Alarms & Events] を表示するには、**[Monitor]** > **[Monitor Tools]** > **[Alarms and Events]** を選択します。



## 履歴トラブルシューティング

正常性スコアが低い特定の期間にズームインし、正常性が低下した原因を把握するために、時間ベースのフィルタが使用されます。ネットワーク正常性のページの情報は、コア、アクセス、ディストリビューション、ルータ、ワイヤレスなどのデバイスロールに分割されています。ネットワークの現在および過去の正常性を把握するために、3時間、24時間、および7日間の時間範囲がサポートされています。

時間ベースのフィルタについては、**[Dashboard] > [Assurance] > [Health] > [Network]** を選択します。



このウィンドウには、ネットワークデバイスおよびクライアントに関するサイト固有の正常性スコアが表示され、デバイスの正常性が、ロール（アクセス、コア、ディストリビューション）別に、正常な割合で示されます。

サイト固有の正常性スコアを表示するには、**[Dashboard] > [Assurance] > [Health] > [Network] > [Global] > [Site Details]** を選択します。

The screenshot shows the Cisco DNA Center Assurance / Dashboards / Health page. The table displays the Network Health (% Healthy Devices) for various sites. The data is as follows:

Site	All	Router	Core	Distribution	Access	Wireless	Others	Network Device Count	Go to site
Global	0%	--	100%	100%	100%	0%	--	3,557	[Go to site]
Unassigned	99%	--	--	--	100%	99%	--	303	[Go to site]
Campus-1	--	--	--	--	--	--	--	--	[Go to site]
GMOS	--	--	--	--	--	--	--	--	[Go to site]
Hyderabad	100%	--	--	100%	100%	100%	--	2,557	[Go to site]
KKcampus	0%	--	--	--	--	0%	--	1	[Go to site]
Kolkata	100%	--	--	100%	100%	100%	--	684	[Go to site]
MGB	--	--	--	--	--	--	--	--	[Go to site]
MUMBAI	90%	--	100%	--	100%	83%	--	10	[Go to site]
Pune	0%	--	--	--	--	0%	--	2	[Go to site]

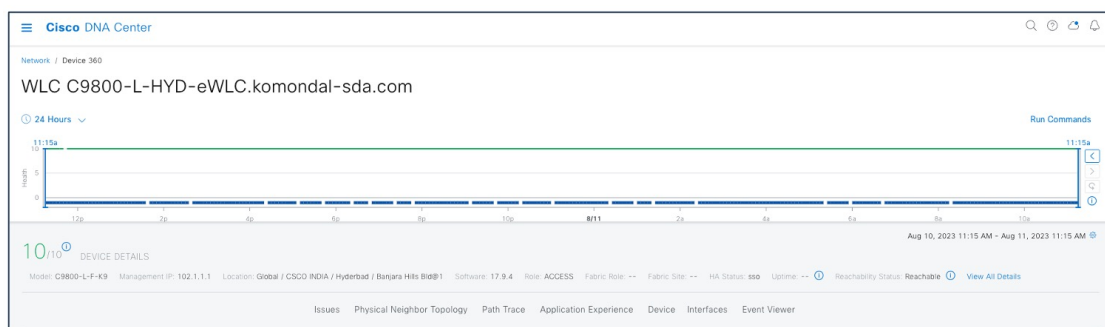
## デバイス 360

[Network Health by Device Roles/Type] ダッシュレットには、ロール別のデバイスカテゴリの正常性スコアが含まれています。特定のネットワーク要素の360度ビューを表示するには、[Network Devices] テーブルでデバイス名をクリックします。

[Device 360] ビューが提供する情報は次のとおりです。

- CPU、メモリなどのデバイスクリティカルな KPI
- 上位の問題のリスト
- デバイスの物理ネイバートポロジ
- イベント ビューア
- [Path Trace]
- Application Experience
- 接続とインターフェイスの使用状況に関する情報

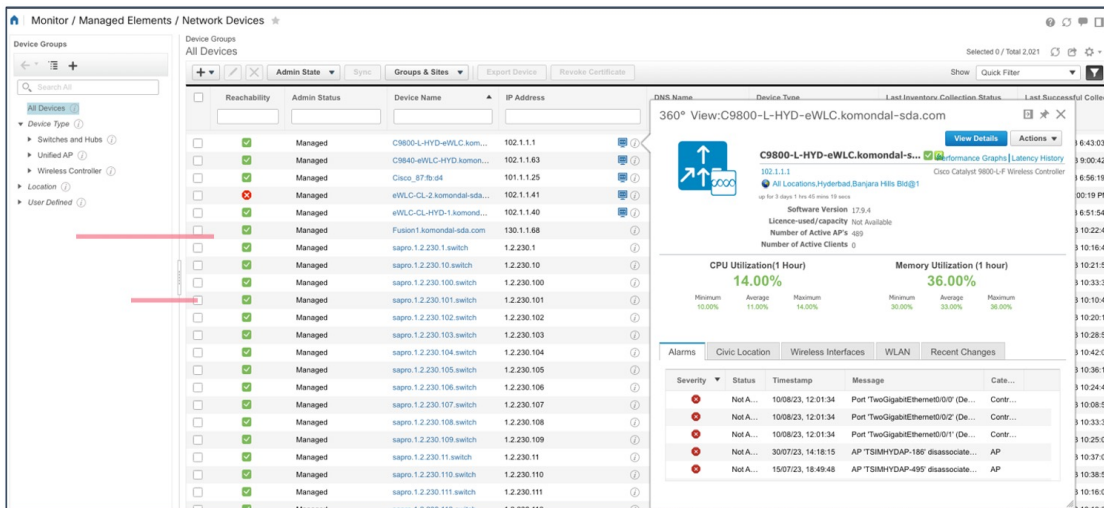
Cisco DNA Center の [Device 360] ビューについては、[Health] > [Network] > [Network Devices] > [Wireless Controller] > [Click Device Name] を選択します。



Cisco Prime Infrastructure の [Device 360] ビューが提供する情報は次のとおりです。

- CPU、メモリなどのデバイスクリティカルな KPI
- 上位アラームのリスト

Cisco Prime Infrastructure の [Device 360] ビューで追加情報を表示するには、[Monitor] > [Managed Elements] > [Network Devices] > [Network Devices] を選択し、IP アドレスの横にある情報アイコン (i) をクリックします。



## Client 360

クライアント正常性ダッシュボードには、クライアントの正常性スコアが表示されます。また、このダッシュボードには、関心がある特定のクライアントに効果的にドリルダウンするための複数のフィルタがあります。

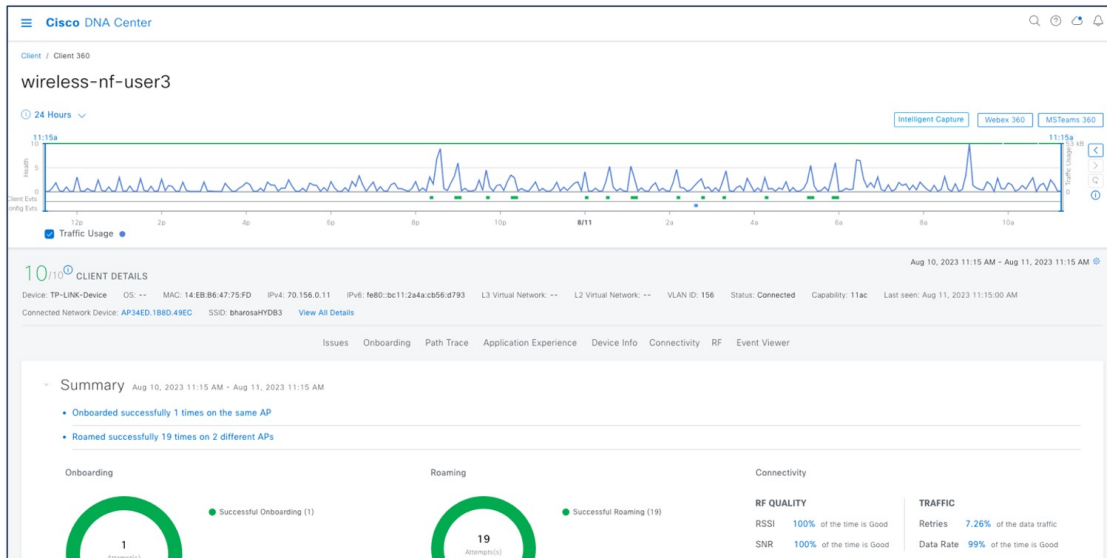
Cisco DNA Center でクライアントの正常性の 360 ビューを表示するには、**[Client] タブ > [Client devices]** をクリックします。

クライアントの [Details 360] ビューは、クライアントの問題のトラブルシューティングに役立ちます。

[Client 360] ビューが提供する情報は次のとおりです。

- クライアントトラフィック使用状況の履歴ビュー
- MAC、IP、VLAN、SSID、AP、コントローラなどのクライアントの詳細
- 上位の問題のリスト
- オンボーディング、ローミング、RF 品質、トラフィックなどのクライアント参加の概要
- [Path Trace]
- デバイス情報
- 接続および RF 情報

Cisco DNA Center の [Client 360] ビューについては、**[Assurance] > [Client] > [Client details] > [Click Client] > [Client 360]** を選択します。



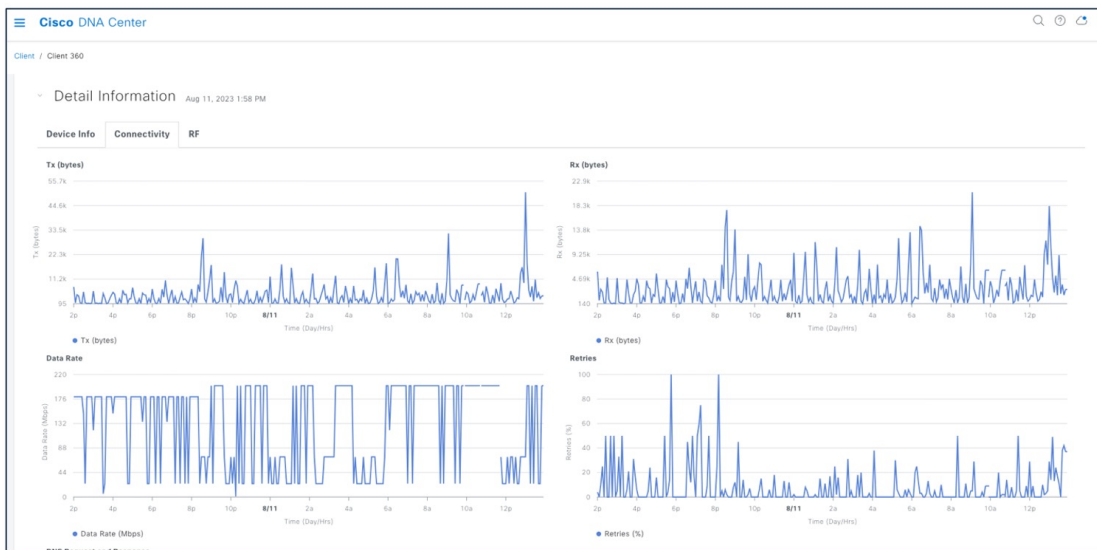
クライアントデバイス情報については、**[Assurance]** > **[Client]** > **[Client details]** > **[Click Client]** > **[Client 360]** > **[Device Info]** を選択します。

The screenshot shows the 'Detail Information' section of the Cisco DNA Center interface. It is divided into two tabs: 'Device Info' and 'Connection Information'. The 'Device Info' tab is currently selected and displays the following information:

Information		Connection Information	
Device Type	TP-LINK-Device	Band	5 GHz
Operating System	--	Spatial Streams	1
User Name	wireless-nf-user3	Channel Width	40 MHz
Host Name	DESKTOP-GG3FD5J	WMM	Supported
MAC Address	14:EB:B6:47:75:FD	U-APSD	Disabled
IPv4 Address	70.151.0.22		
IPv6 Address	2001:70:151:0:24ac:2:8595:9dfe (2 more)		
Status	Connected		
VLAN ID	151		
Association Protocol	11ac		
Protocol Capability	11ac		
L3 Virtual Network	--		
L2 Virtual Network	--		
Tracked	No		
Exclusion	No		

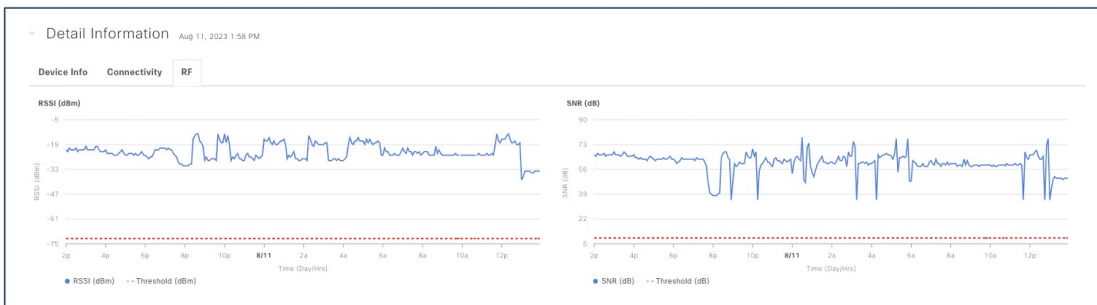
クライアントのトラブルシューティングを改善するために、クライアント接続では、Tx（バイト）、RX（バイト）、データレート、再試行、および Cisco DNA Center 要求と応答の詳細が提供されます。

クライアント接続情報については、**[Assurance]** > **[Client]** > **[Client details]** > **[Click Client]** > **[Client 360]** > **[Detail Information]** > **[Connectivity]** を選択します。



クライアント RF 情報では、RSSI と SNR の詳細が提供されます。

クライアント RF 情報については、**[Assurance] > [Client] > [Client details] > [Click Client] > [Client 360] > [Detail Information] > [RF]** を選択します。

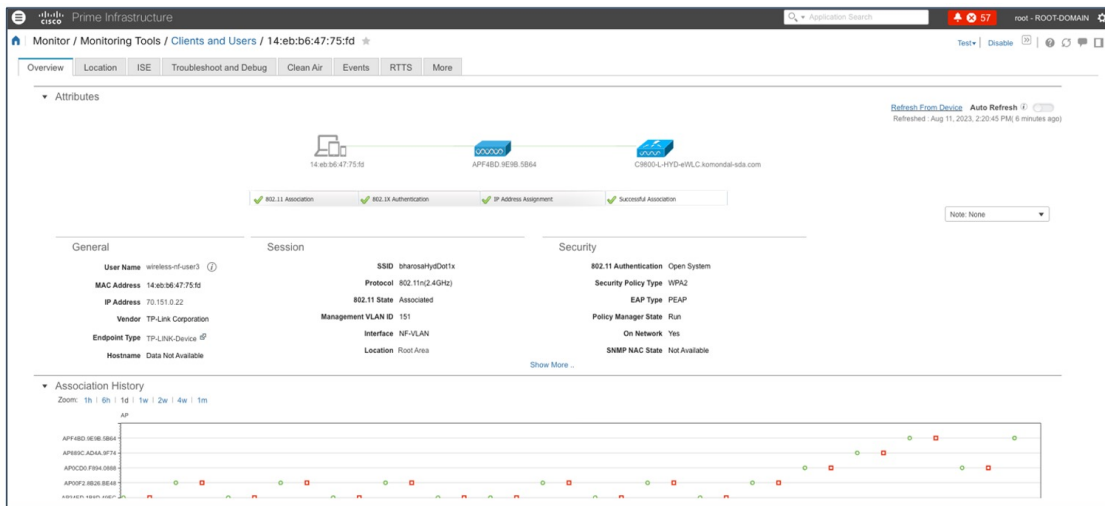


Cisco Prime Infrastructure クライアントの概要を表示すると、次のことができます。

- クライアントのモニター
- アラートとイベントの表示
- コントローラとクライアントの場所の設定

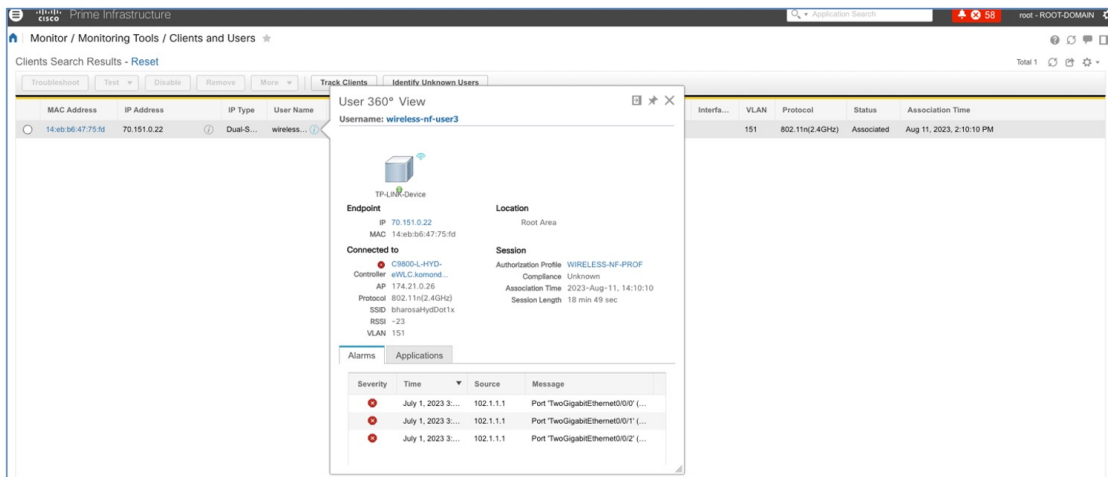
ISE、エンドポイントタイプ、ポスチャ、認証プロファイル名などの属性は、Cisco Prime Infrastructure に追加された Cisco ISE によって表示されます。





Cisco Prime Infrastructure の [User 360] ビューには、ユーザー IP、コントローラ、アラーム、セッションの詳細などの詳細情報が表示されます。

Cisco Prime Infrastructure の [User 360] ビューについては、[Monitor] > [Monitor Tools] > [Client and users] を選択します。ユーザー名の情報 (i) アイコンをクリックすると、追加情報が表示されます。



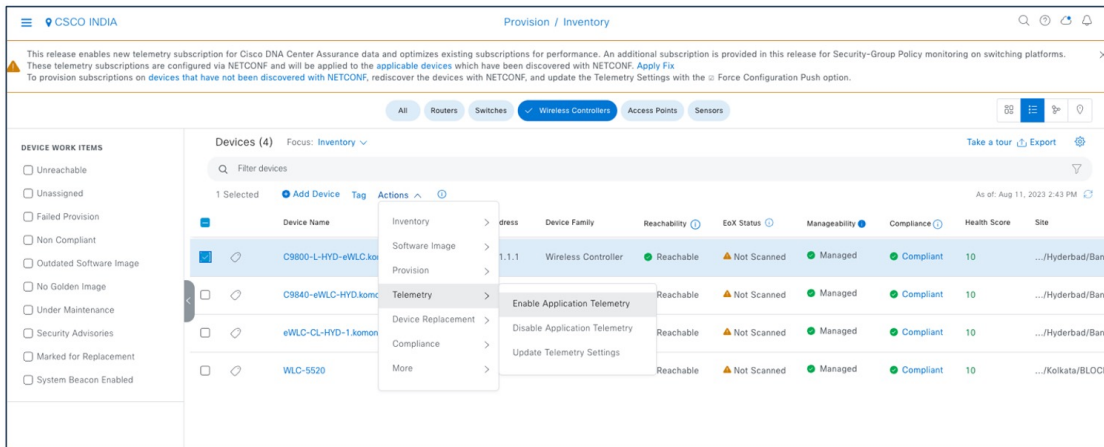
## Application 360

Application 360 は、ネットワーク上のすべてのアプリケーションの正常性に関する一般的な概要を提供します。これには、ビジネス関連としてタグ付けされたアプリケーションに関する特別なセクションが含まれます。ビジネスに関連するアプリケーションの問題がハイライトされ、異常の推奨される修復アクションが示されます。

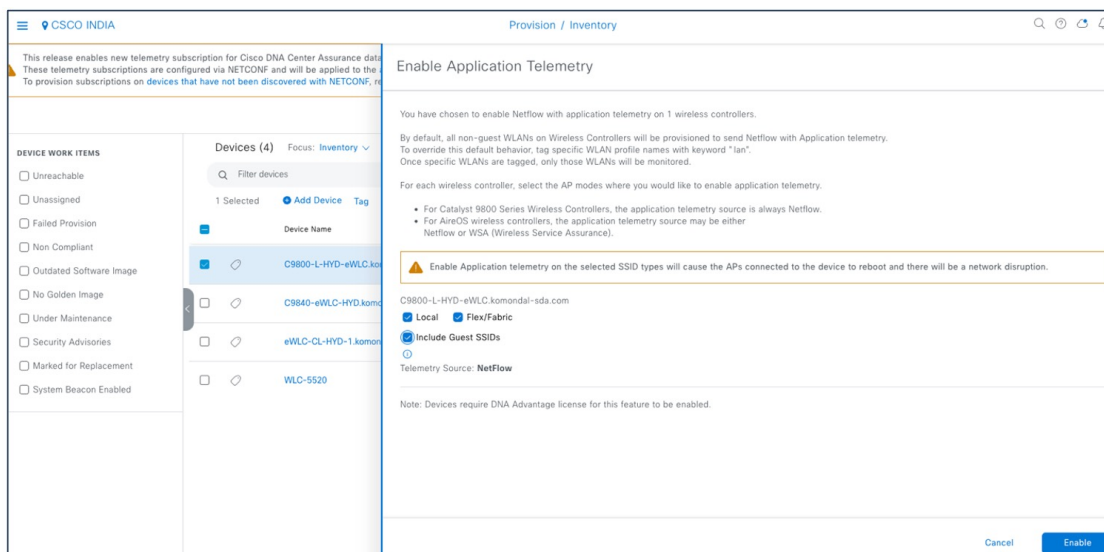
アプリケーションテレメトリは、移行後に、ワイヤレスコントローラに関して Cisco DNA Center から有効になります。移行前にコントローラに NetFlow エクスポート、モニター、およびレコードがすでに存在している可能性があります。その場合は、Cisco DNA Center からアプリケーションテレメトリを有効にする前に、NetFlow 関連の設定が削除されます。

選択したデバイスでアプリケーションテレメトリを設定するには、アプリケーションテレメトリを有効にします。

アプリケーションテレメトリを有効にするには、**[Inventory]>[Select device]>[Actions]>[Telemetry]>[Enable Application Telemetry]** を選択します。

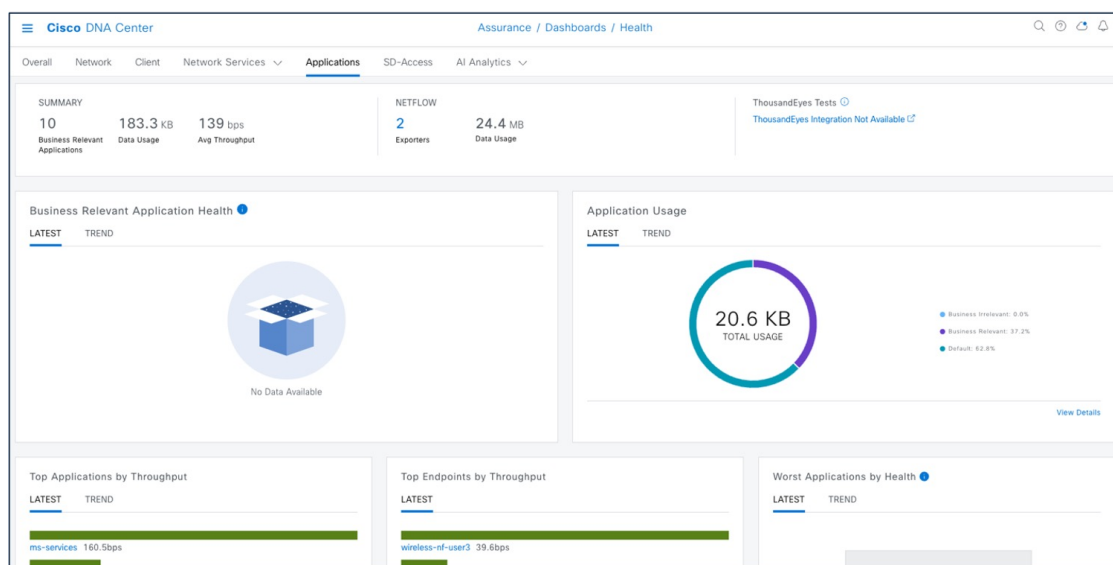


次の図に示すように、アプリケーションテレメトリを有効にする前に、SSID タイプを有効にします。



[Application Telemetry] 列には、テレメトリの設定ステータスが表示されます。デフォルトの列設定で [Application Telemetry] 列が表示されない場合は、列見出しの右端にある省略記号アイコンをクリックし、[Application Telemetry] チェックボックスをオンにします。

アプリケーションダッシュボードを表示するには、**[Assurance]>[Dashboard]>[Application]** を選択します。



詳細については、「[Criteria for Enabling Application Telemetry on Devices](#)」を参照してください。

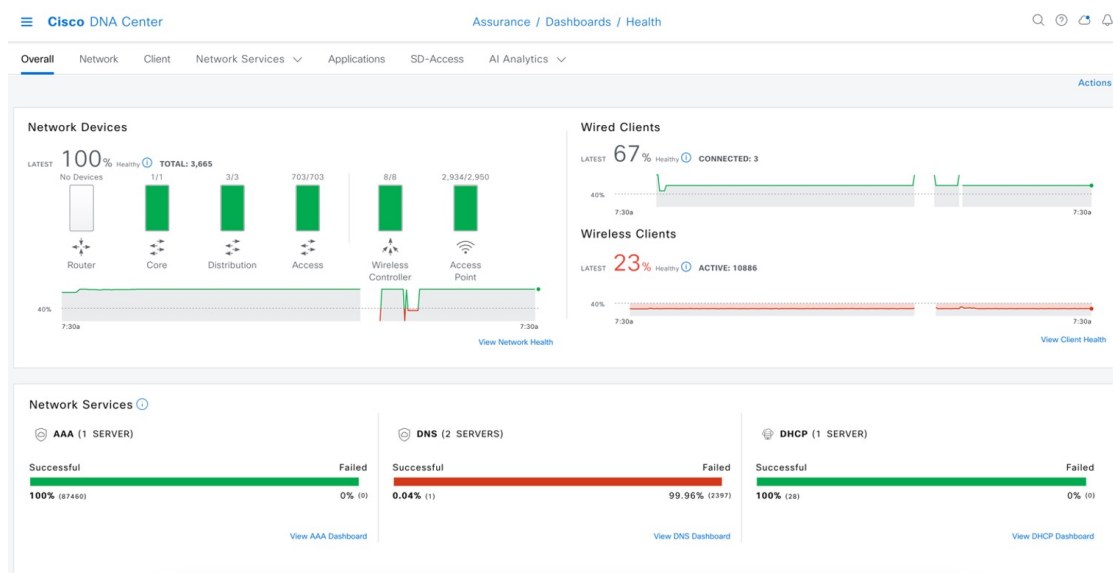
## Network Service 360

次の機能により、重要なサービスの全体的な正常性をすべて1箇所ですべて把握できます。

- 認証、許可、アカウントिंग (AAA) の表示
- Cisco およびすべてのサードパーティサーバー全体にわたるワイヤレスデバイスの Dynamic Host Configuration Protocol (DHCP) サービスのグローバルな包括的ビュー

これらの機能により、ネットワークオペレータはチケットの全体的な解決時間を短縮し、チケットの量を減らすことができます。

ネットワークサービスを表示するには、**[Assurance] > [Dashboard] > [Network Services]** を選択します。



詳細については、「[ネットワークサービスの監視](#)」を参照してください。

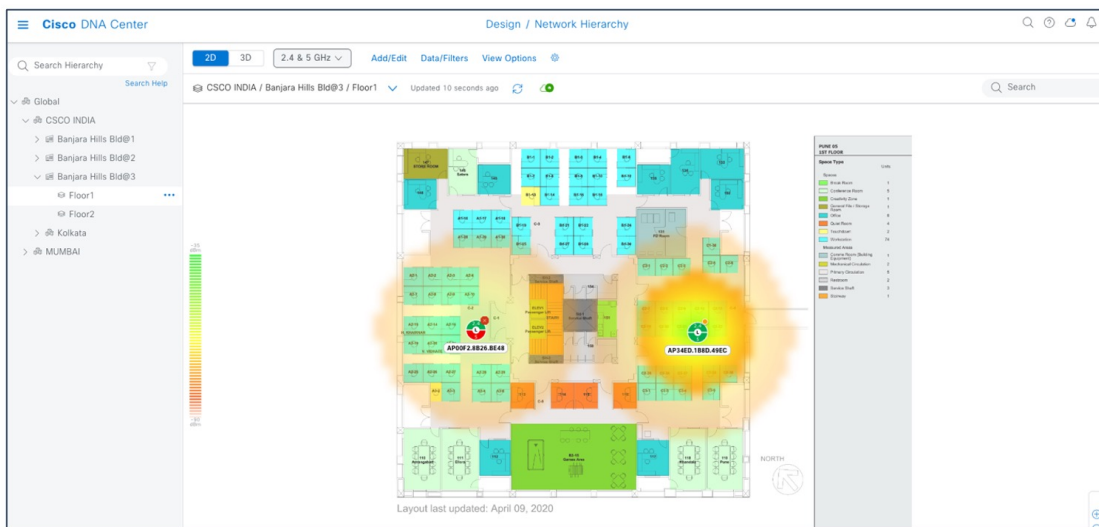
## マップ

フロアマップ付きのフロアを追加する理由はいくつかあります。理由の1つは、ワイヤレスネットワークを現在の状態で表示することです。もう1つの理由は、将来の変更の計画と視覚化を支援するためです。

壁や窓などのさまざまな建物コンポーネントを含むフロアマップを作成またはインポートし、その上にワイヤレスデバイスを配置することで、ワイヤレスネットワークを視覚化できます。Cisco DNA Centerでは、フロアプランを使用して、カバレッジエリア内のRF信号の相対強度を示す2Dおよび3Dヒートマップを計算します。2Dワイヤレスマップの場合、このヒートマップは、石壁や金属の物体など、ビルディングのさまざまな素材の減衰は考慮されておらず、RF信号が障害物に跳ね返る影響も表示されないため、実際のRF信号強度の近似値に過ぎません。3Dマップは、主にフロア上のワイヤレスネットワークの計画と分析に使用されます。そのため、3Dマップで実行できる最小限の設定および編集機能があります。3Dワイヤレスマップを使用すると、ワイヤレスネットワークを3Dで表示できます。ほぼリアルタイムの予測モデルにより、3Dマップが動的に更新され、RFカバレッジの変化が示されます。

データ移行ツール (PDMT) は、マップをグループ、デバイス、および関連するフロアマップとともに移行するために使用されます。

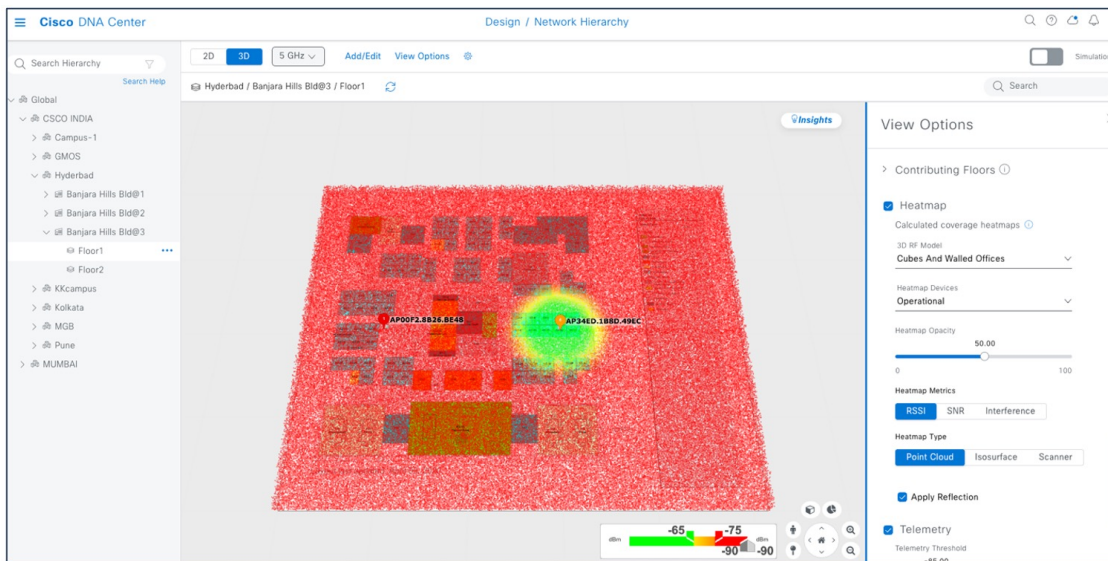
次の図は、APオーバーレイとヒートマップカバレッジが表示されたCisco DNA Centerの2Dフロアマップビューを示しています。



3Dワイヤレスマップは、次の機能を提供します。

- 3D環境で一人称ビューまたは三人称ビューを使用してワイヤレスネットワークを移動する。
- サービスレベル契約 (SLA) が満たされていないワイヤレスネットワークのエリアに関するインサイトを得る。
- オプティマイザツールを実行して、SLAを満たす最適なAPレイアウトを計算します。
- さまざまな高度のRFカバレッジを表示し、スキャナツールを使用して特定の高度のRFカバレッジを表示する。
- クリッピングツールを使用してKPIヒートマップをクリッピングする。

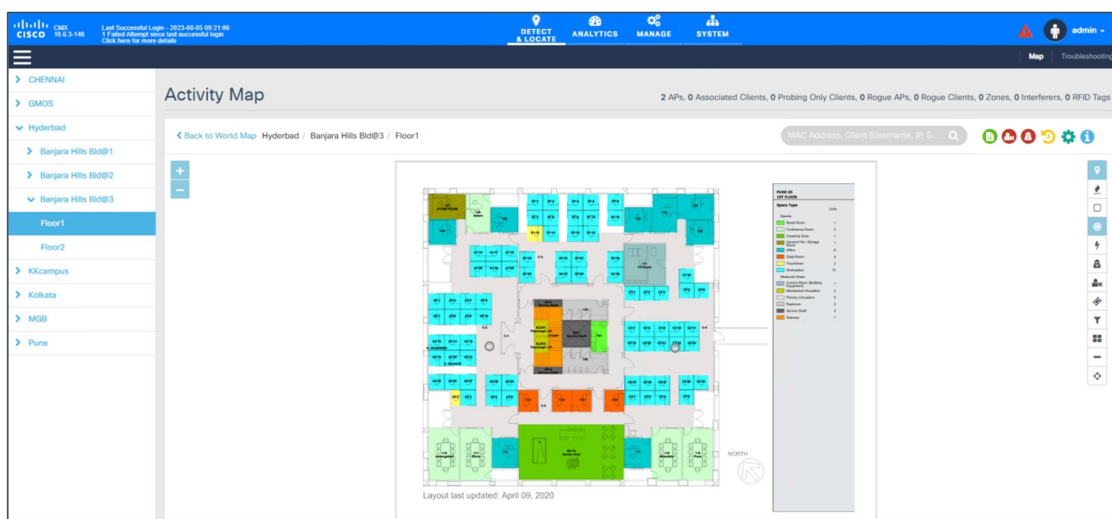
次の図は、Cisco DNA Centerの3Dマップビューを示しています。



次の図は、移行後の Cisco Prime Infrastructure のヒートマップカバレッジをとまなうフロアを示しています。



次の図は、ワイヤレスマップの Cisco CMX を示しています (PDMT を使用して Cisco Prime Infrastructure から移行)。



(注) PDMTの動的同期は、すでに移行されたデータの追加、更新、または削除操作をサポートせず、マップのデータ自動化を同期しません。マップの移行は、強制同期によってのみ実行されます。

詳細については、「[Work with Wireless 2D and 3D Floor Maps](#)」を参照してください。

## 不正および aWIPS

Cisco DNA Center の不正管理アプリケーションは、WLAN の脅威を検出して分類し、検出されたそれらの脅威をネットワーク管理者およびオペレータがモニターできるようにします。無許可の不正アクセスポイント (AP) は、WLAN 内の機密情報をハッキングするために使用されます。

Cisco Adaptive Wireless Intrusion Prevention System (aWIPS) は、ワイヤレス侵入の脅威を検出および軽減するメカニズムです。インフラストラクチャに完全に統合されたソリューションを採用して、有線ネットワークと無線ネットワークの両方で無線トラフィックを継続的に監視し、ネットワーク インテリジェンスを使用してさまざまなソースからの攻撃を分析することにより、損害または漏洩が発生する前に、攻撃を正確に特定し事前に防止することができます。

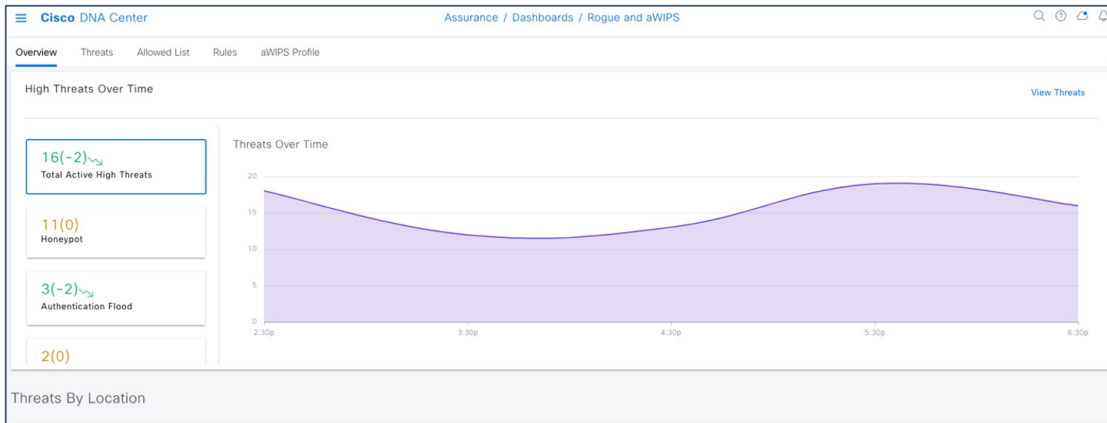
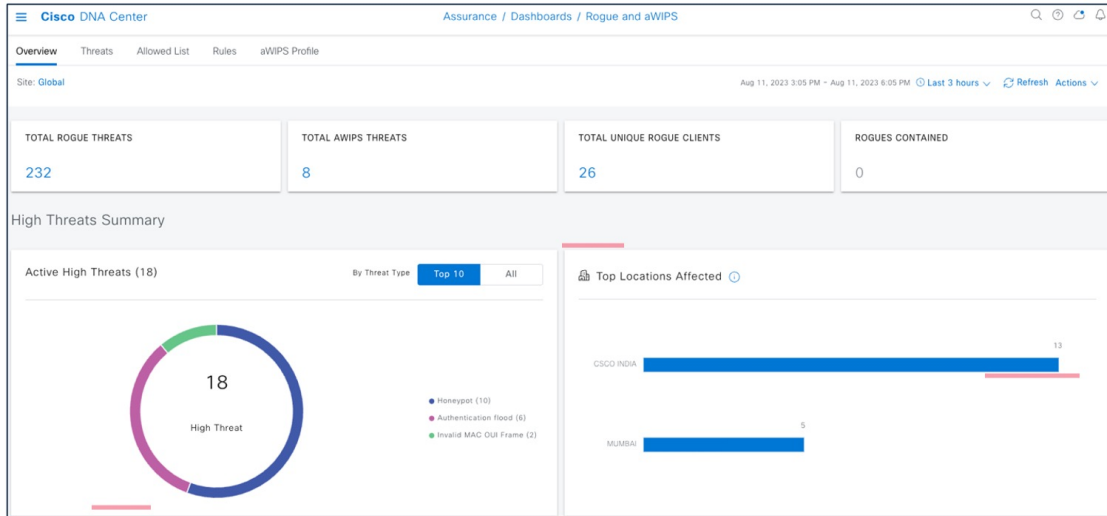
不正管理および aWIPS アプリケーションをオンにする方法の詳細については、『[Cisco DNA Center Rogue Management and aWIPS Application](#)』を参照してください。

Cisco DNA Center の [Rogue and aWIPS] ダッシュボードには次の利点があります。

- より信頼性の高いトランスポートプロトコル (HTTPS/TCP など) に基づいて通信するワイヤレステレメトリに基づいて構築されています。
- 分類エンジンが改善されます。
- Cisco Prime Infrastructure と比較して、RF グループ名が異なるために管理対象 AP が不正として報告される誤検出が減少します。
- 複数の SSID を持つ不正 AP を単一の脅威に集約することで、複雑さが軽減されます。
- 不正 AP に関するコンテキストデータ (時間と場所) をユーザーが利用できるようになります。

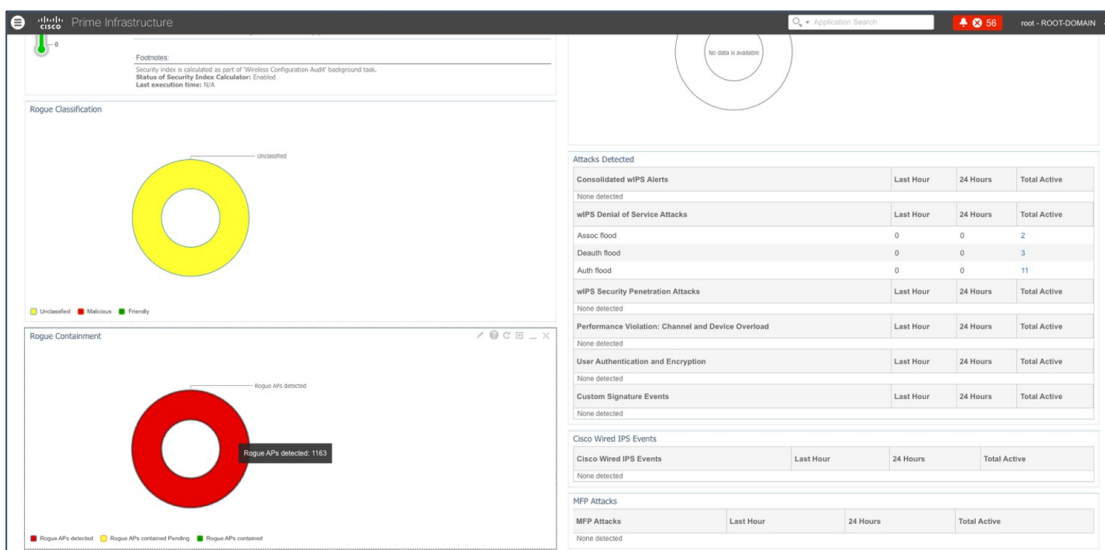
- 有線で不正 AP をトレースするための関連アルゴリズムが改善されます（BSSID からイーサネット MAC アドレスへのマッピングを使用したマルチベンダーアルゴリズム）。

Cisco DNA Center の [Rogue and aWIPS] ダッシュボードを表示するには、[Assurance] > [Rogue and aWIPS] を選択します。

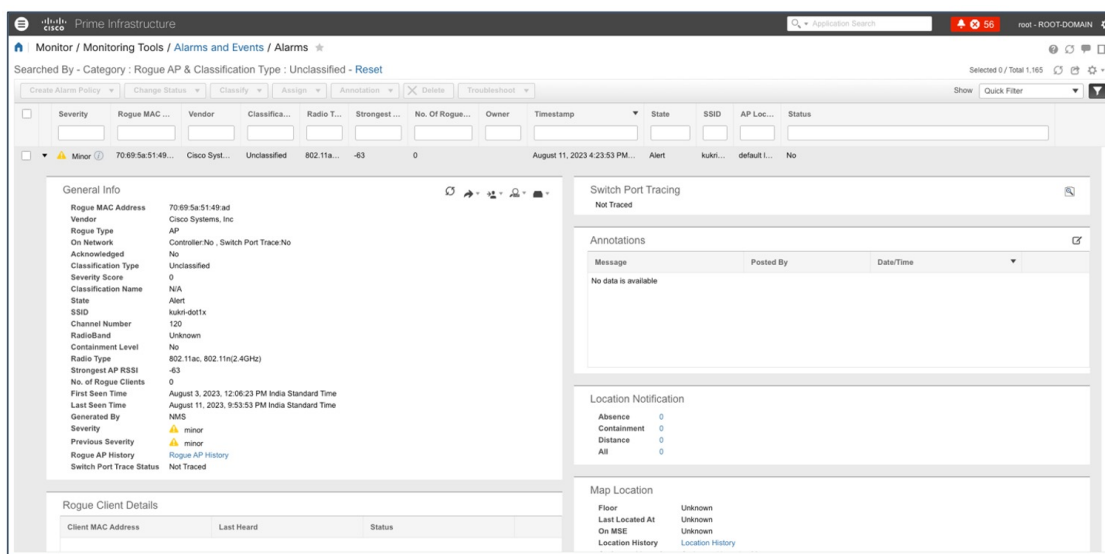


Cisco Prime Infrastructure の [Rogue and aWIPS] ダッシュボードを表示するには、[Dashboard] > [Wireless] > [Security] を選択します。

このページには、過去 1 時間と過去 24 時間に検出された不正 AP がすべて表示されます。不正 AP アラームを表示するには、不正 AP の番号をクリックします。



不正 AP の一般情報、問題の重大度、および不正 AP アラームの最近のイベントを表示するには、**[Monitor]>[Monitoring Tools]>[Alarms and Events]>[Rogue AP]** を選択します。



詳細については、『Cisco DNA Assurance User Guide』を参照してください。

## テンプレート

ユーザー定義 CLI テンプレートには、ネットワークデバイスで変更を加えるために使用できる設定済みの設定テンプレートが用意されています。十分な権限を持っている場合は、ご使用の環境のニーズに完全に合う新しいテンプレートを作成し、そのテンプレートを他の人が使用できるようにすることもできます。複数のテンプレートをまとめて1つの複合テンプレートにグループ化するなど、テンプレートを必要に応じて単純または複雑にすることができます。最後に、設定グループを作成してテンプレートを特定のデバイスに関連付けることができます。



Cisco DNA Center テンプレートには次のような利点があります。

- テンプレート内のエラーの検証
- テンプレートのシミュレーション
- 追跡のためのテンプレートのバージョン管理
- Day-0 オンボーディングと Day-n テンプレート

テンプレートの機能	Cisco Prime Infrastructure	Cisco DNA Center
機能およびテクノロジーテンプレート	サポートあり	ブラウンフィールド学習 <sup>1</sup>
標準 CLI テンプレートの作成	サポート対象	サポート対象
複合テンプレート	サポート対象	サポート対象
テンプレートのインポート/エクスポート	サポート対象	サポート対象
タギングテンプレート	サポート対象	サポート対象外

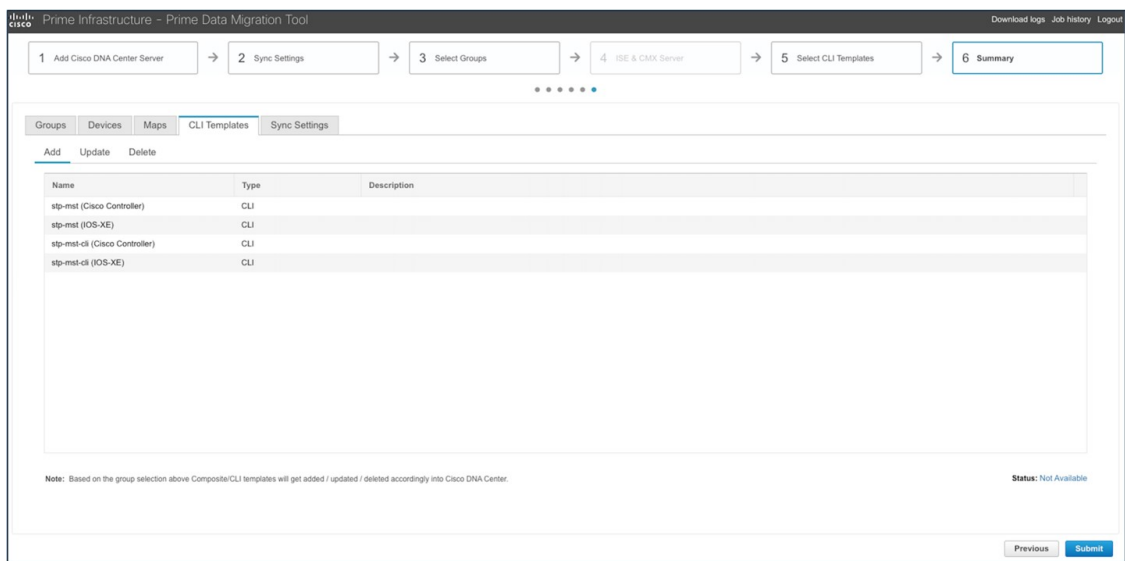
<sup>1</sup> デバイス設定学習ワークフローを使用してワイヤレスデバイスから既存の設定を学習することはお勧めしません。デバイス設定学習ソリューションが完了して準備が整うまで、Cisco Prime Infrastructure をワイヤレス設定管理に使用できます。

## ユーザー定義 CLI テンプレート

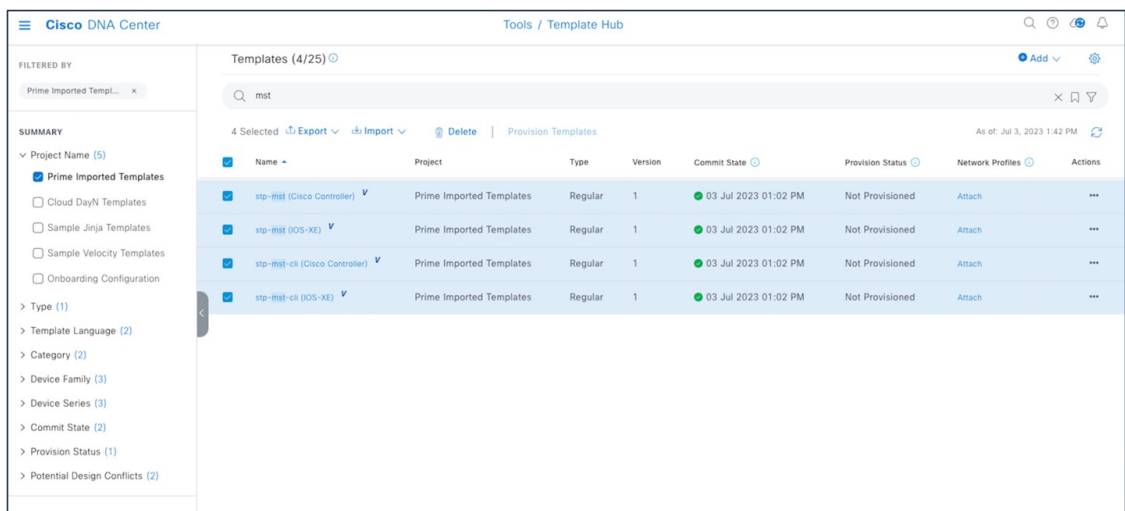
ユーザー定義 CLI テンプレートは、テンプレートで使用できる CLI コマンドを使用してカスタマイズされた設定を提供します。新しい CLI コマンドを作成するために空白の CLI テンプレートを使用できます。

Cisco Prime Infrastructure で作成されたユーザー定義 CLI テンプレートは、PDMT を使用して移行できます。移行された CLI テンプレートは、Cisco DNA Center のテンプレートハブに表示されます。デフォルトではユーザー定義テンプレートのみが移行されます。

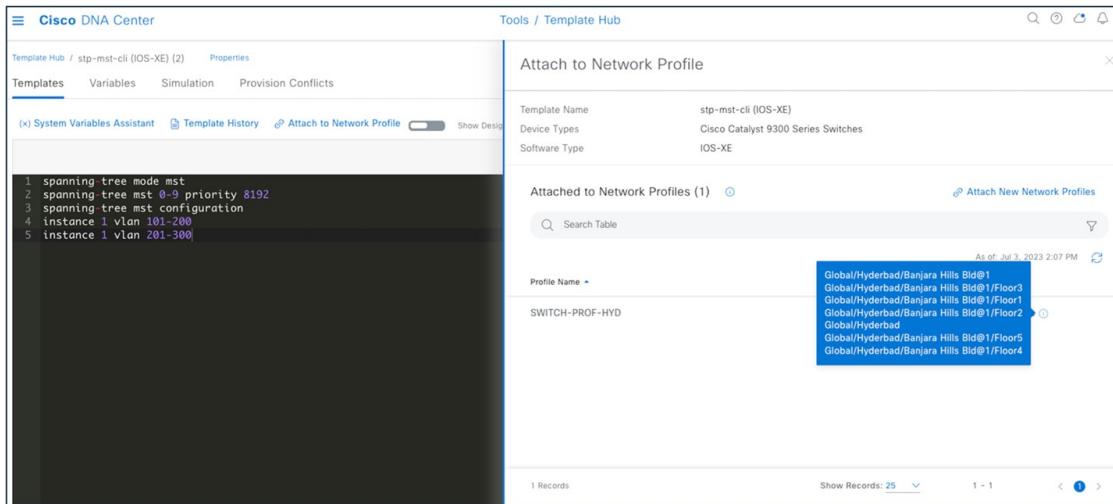
Cisco Prime Infrastructure でユーザー定義テンプレートを表示するには、**[Prime Data Migration Tool] > [Summary] > [CLI Templates]** を選択します。



移行されたテンプレートを Cisco DNA Center のテンプレートハブに表示するには、**[Tools] > [Template Hub] > [Project Name] > [Prime Imported Templates]** を選択します。



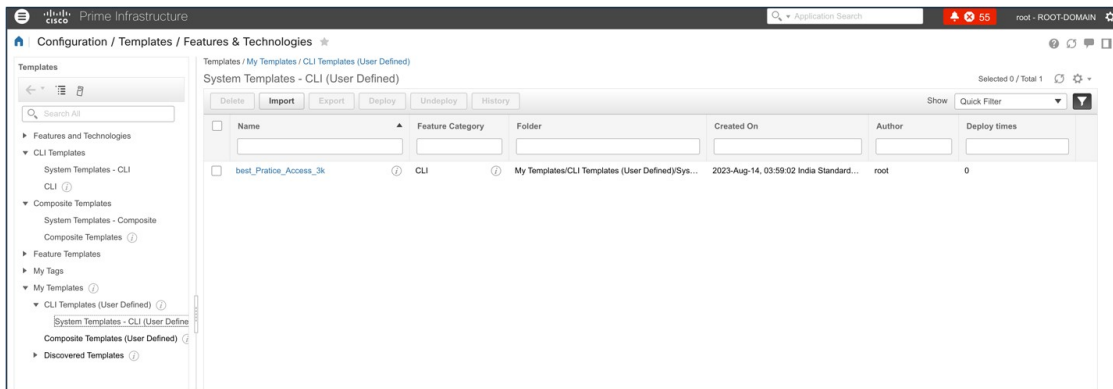
テンプレートをネットワークデバイスにプロビジョニングする前に、テンプレートをネットワークプロファイルに関連付ける必要があります。テンプレートをネットワークプロファイルに関連付けるには、**[Tools] > [Template Hub] > [Project Name] > [Prime Imported Templates] > [Select Template] > [Attach to Network Profile]** を選択します。



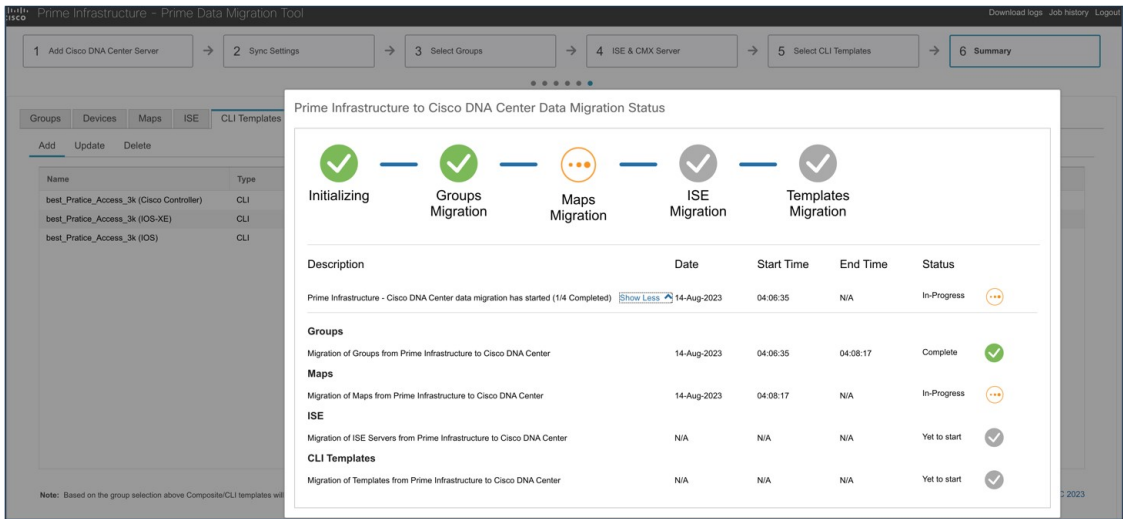
## システム定義 CLI テンプレート

Cisco Prime Infrastructure のワイヤレス機能およびテクノロジーテンプレートとシステム CLI テンプレートを使用して、ワイヤレスコントローラに設定をプッシュします。デフォルトでは、これらのテンプレートは PDMT を使用して移行できません。

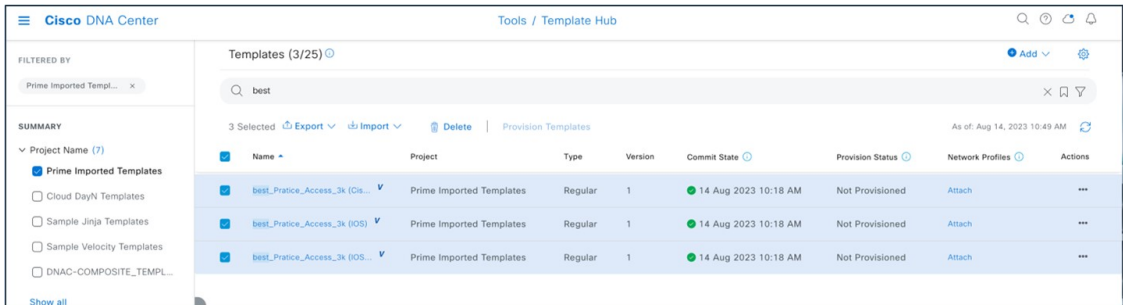
ただし、[My Templates] > [CLI Templates (User Defined)] > [System Templates - CLI (User Defined)] でシステム CLI テンプレートを保存してから移行することができます。



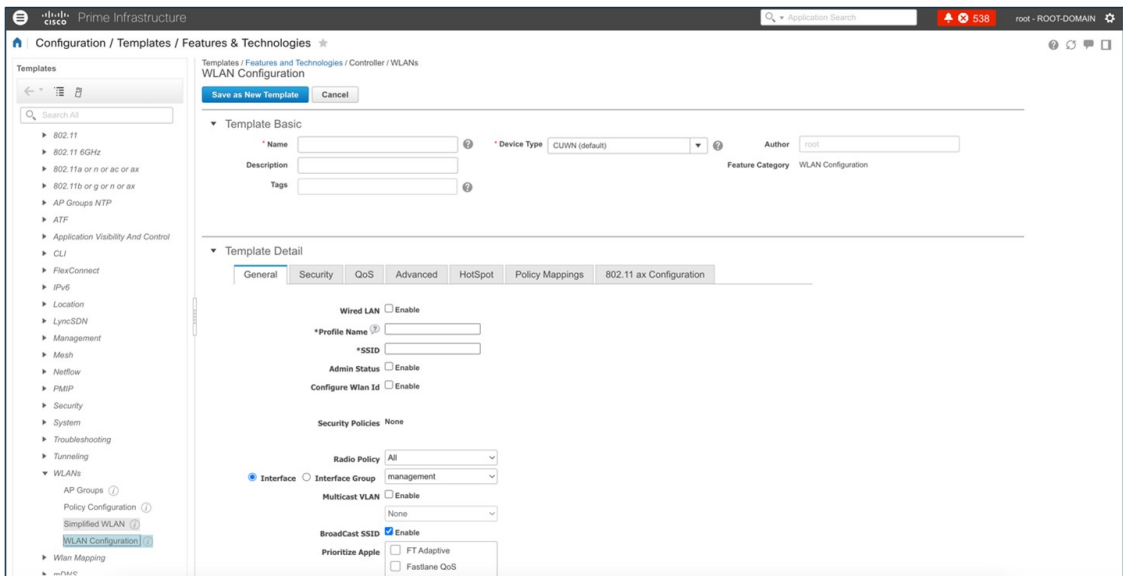
その後、PDMT を使用して、保存したシステム CLI テンプレートを移行します。



移行後、テンプレートはCisco DNA Centerのテンプレートハブに表示されます。



Cisco Prime Infrastructureの組み込みワイヤレステンプレートを表示するには、[Configuration] > [Templates] > [Features & Technologies] > [Controller] > [WLANS] > [WLAN Configuration]を選択します。





- (注) Cisco Prime Infrastructure のポートベースのテンプレートでは、テンプレートをプロビジョニングする前に、Cisco DNA Center での追加の CLI の変更が必要です。テンプレートハブからプロビジョニングされたテンプレートを使用して、テンプレートをプロビジョニングできます。

Cisco DNA Center のテンプレートハブの詳細については、「[Create Templates to Automate Device Configuration Changes](#)」を参照してください。

## コンプライアンス

Cisco Prime Infrastructure は、デバイス設定がネットワーク要件を満たしているかどうかを監査するために使用できるコンプライアンス機能を提供します。コンプライアンスポリシーは、システムがネットワーク標準および期待値に準拠しているかどうかを評価する方法を定義します。

コンプライアンス プロファイルは、システムが設定監査を実行するために使用するカスタムおよびシステム コンプライアンス ポリシーを編成する手法です。

Cisco DNA Center の組み込みコンプライアンスにより、デバイスがビジネス目的に準拠することが保証されます。

コンプライアンスは、元のコンテンツに影響を与えることなく注入または再設定される可能性があるネットワークのインテント逸脱やアウトオブバンドの変更を特定するために役立ちます。

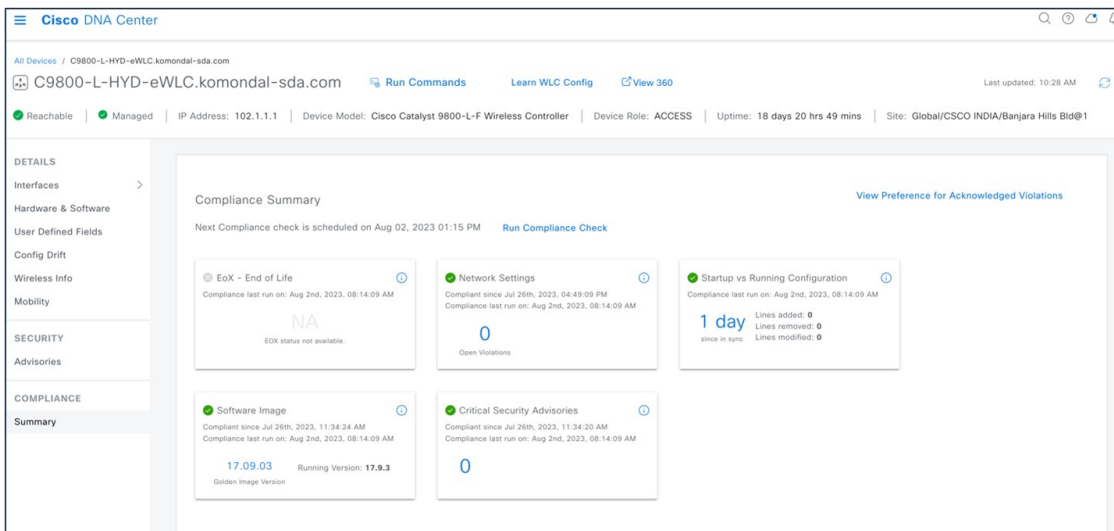
Cisco DNA Center のコンプライアンスの概要：

- [Network Settings] : デバイス設定が Cisco DNA Center で設計およびプロビジョニングされた内容に準拠していることを示します。
- [End of Life] : デバイスにサポート終了アラートがないことを示します。
- [Startup vs Running Configuration] : スタートアップ設定と実行中の設定の両方が同期していることを示します。
- [Software Image] : デバイスがゴールデンイメージを実行していることを示します。
- [Critical Security Advisories] : デバイスに関する重要なアドバイザリがないことを示します。

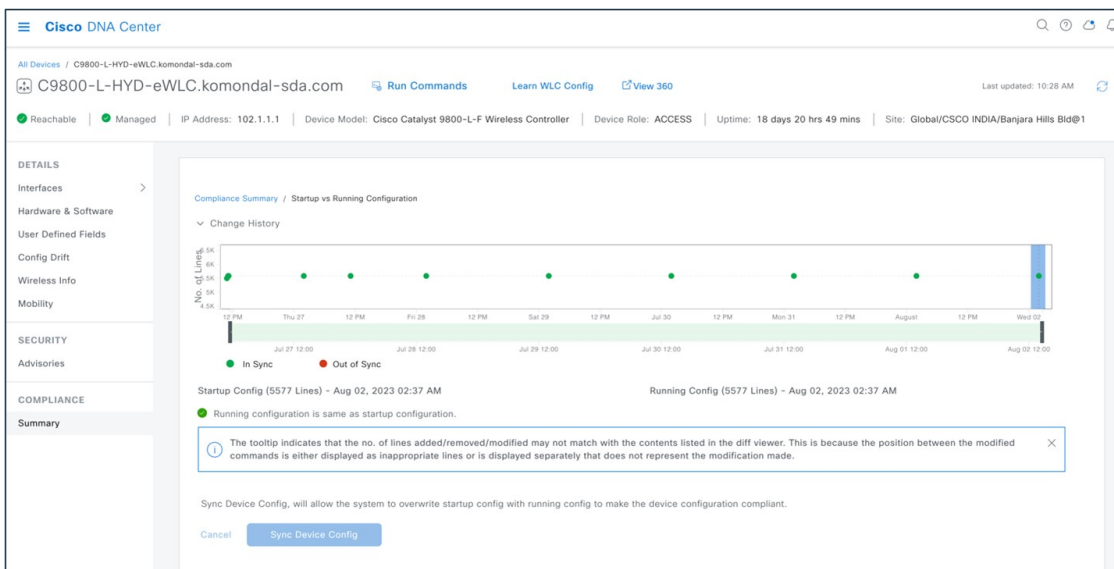
ネットワーク管理者は、Cisco DNA Center でコンプライアンス要件を満たしていないデバイスを簡単に特定できます。コンプライアンスチェックは、自動化することも、オンデマンドで実行することもできます。

- 自動コンプライアンスチェック : デフォルトでは、アウトオブバンドの変更に関するコンプライアンスチェックがトリガーされます。
- 手動コンプライアンスチェック : [Inventory] ウィンドウまたはデバイス固有のウィンドウからトリガーできます。
- スケジュールされたコンプライアンスチェック : すべてのデバイスに対して毎週トリガーされます。

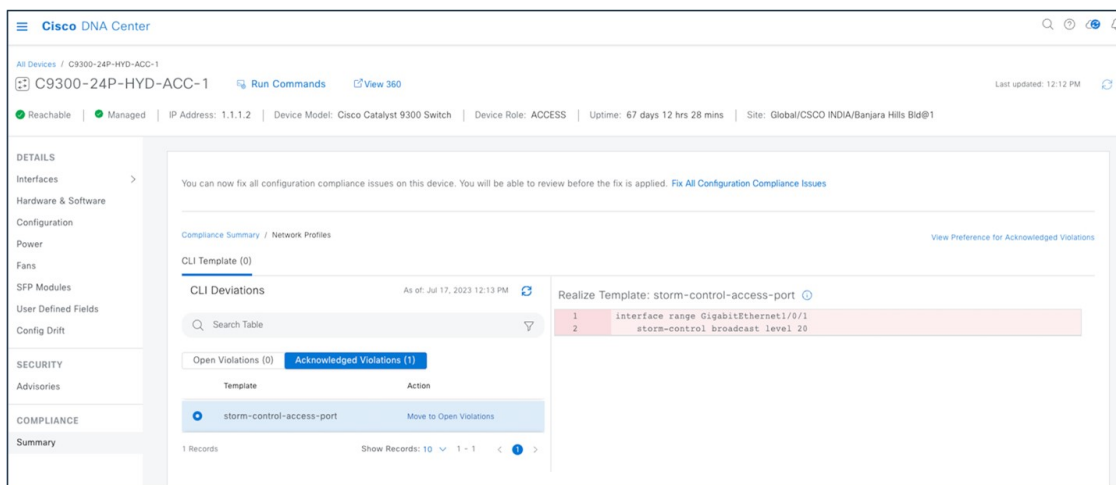
Cisco DNA Center でコンプライアンスの概要を表示するには、**[Provision] > [Inventory] > [Select Device] > [View Device Details] > [Compliance] > [Summary]** を選択します。



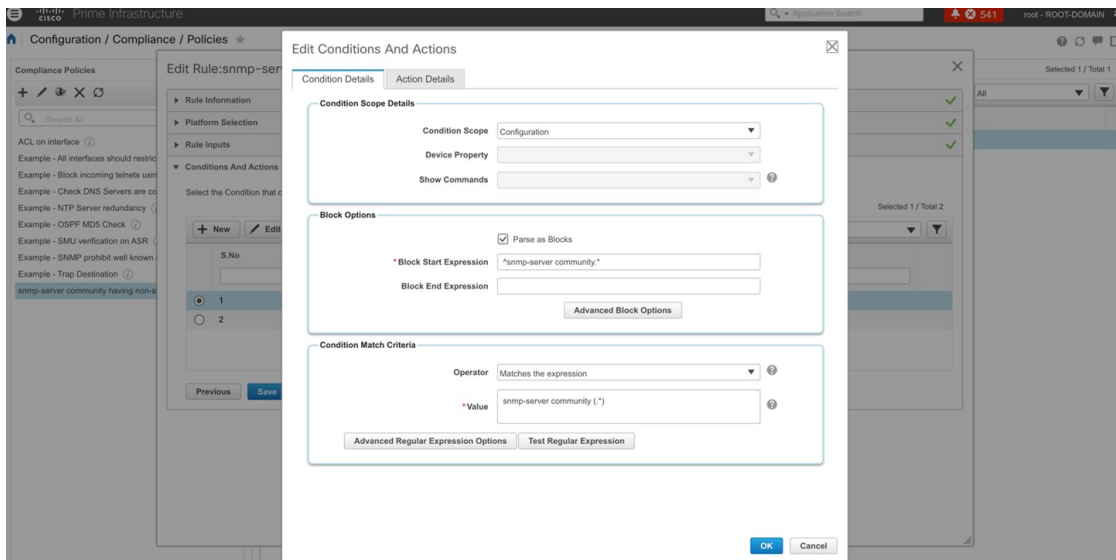
Cisco DNA Center では、[Startup vs. Running Configuration] コンプライアンスチェックで、デバイスのスタートアップ設定と実行中の設定が同期しているかどうかを識別されます。設定が同期していない場合は、コンプライアンスチェックがトリガーされ、アウトオブバンド変更の詳細レポートが表示されます。このチェックは、アウトオブバンドの変更から5分以内にトリガーされます。Cisco DNA Center で [Startup vs. Running Configuration] コンプライアンスチェックを表示するには、[Provision] > [Inventory] > [Select Device] > [View Device Details] > [Compliance] > [Summary] > [Startup vs. Running Configuration] を選択します。



Cisco DNA Center では、テンプレート CLI プッシュの後に未解決の違反を表示できます。重要度の低いデバイスコンプライアンス違反を確認できます。コンプライアンスステータスの計算に違反をオプトインしたり、計算から違反をオプトアウトすることができます。



Cisco Prime Infrastructure でルールベースのコンプライアンスを表示するには、**[Configuration] > [Compliance] > [Policies]** を選択します。



Cisco Prime Infrastructure でコンプライアンス違反の概要を表示するには、**[Configuration] > [Compliance] > [Violation Summary]** を選択します。

Device Name	Profile Name	Audit Job Id	Policy Name	Rule Name	Rule Severity	Flattened?	Fixed?	Violation Message
saprs.1.2.230.25	HyattSite	1796295321	snmp-server comm...	snmp-server com...	Minor	No	No	Detects unauthorized community string public R/R
saprs.1.2.230.19	HyattSite	1796295321	Barriers	Exec banner sho...	Warning	No	No	Exec banner should be configured.
saprs.1.2.230.19	HyattSite	1796295321	Barriers	Login message s...	Warning	No	No	Login Message should be configured.
saprs.1.2.230.19	HyattSite	1796295321	Barriers	Message Of The ...	Warning	No	No	Message Of The Day should be configured.
saprs.1.2.230.19	HyattSite	1796295321	CDP	Check for CDP s...	Minor	No	No	CDP protocol should be 'Enabled' but it is 'Enabled'.
saprs.1.2.230.19	HyattSite	1796295321	Logging And Syslog	Check buffer log...	Warning	No	No	Desired buffer logging level is 'Informational', but configured logging level is 'Warning'.
saprs.1.2.230.19	HyattSite	1796295321	Logging And Syslog	Check console lo...	Warning	No	No	Desired console logging level is 'Critical', but configured logging level is 'Warning'.
saprs.1.2.230.19	HyattSite	1796295321	Logging And Syslog	Check logging en...	Warning	Yes	No	Login failure log not enabled.
saprs.1.2.230.19	HyattSite	1796295321	Logging And Syslog	Check monitor s...	Minor	No	No	Monitor logging should be 'Enabled'. But it is 'Enabled'.
saprs.1.2.230.19	HyattSite	1796295321	Terminal Access	Check two-way s...	Minor	No	No	ssh authentication app default is not configured.
saprs.1.2.230.19	HyattSite	1796295321	User Passwords	Passwords mult...	Minor	No	No	password is not MD5 encrypted.
saprs.1.2.230.19	HyattSite	1796295321	User Passwords	Check maximum ...	Minor	No	No	Authentication failure rate is not configured, desired value is 5.
saprs.1.2.230.19	HyattSite	1796295321	User Passwords	Check login tim...	Minor	Yes	No	Login block parameters as specified are not configured.
saprs.1.2.230.19	HyattSite	1796295321	User Passwords	Check minimum l...	Minor	No	No	Passwords min length not configured, desired value is 8.
saprs.1.2.230.19	HyattSite	1796295321	User Passwords	Check enable ps...	Minor	No	No	Enable password configured but strong encryption not used.
saprs.1.2.230.19	HyattSite	1796295321	snmp-server comm...	snmp-server com...	Minor	No	No	Detects unauthorized community string public R/R

詳細については、「[Compliance Audit for Network Devices](#)」を参照してください。

## レポート

Cisco Prime Infrastructure レポートでは、システムおよびネットワークの正常性に関する情報と障害情報が提供されます。定期的にレポートが実行されるようにカスタマイズしてスケジュールすることができます。レポートでは、データを表形式とグラフ形式のいずれかまたは両方の組み合わせで表示できます。CSV 形式または PDF 形式のレポートを、ダウンロードするために Cisco Prime Infrastructure サーバーに保存するか、電子メールアドレスに送信することができます。

Cisco Prime Infrastructure は、次のタイプのレポートデータを提供します。

- 現在 (Current) : 時間に依存しないデータのスナップショットを提供します。
- 履歴 (Historical) : デバイスから定期的にデータを取得し、そのデータを Cisco Prime Infrastructure のデータベースに保存します。
- 傾向 (Trend) : 最小値、最大値、および平均値として集計された集約データを使用してレポートを生成します。

Cisco Prime Infrastructure では、特定の基準に基づいてレポートをフィルタ処理できます。レポートをエクスポートしたり、レポートを論理グループにソートしたり、長期間保存するためにレポートをアーカイブすることもできます。

Cisco DNA Center は、レポート機能のデータを使用して、ネットワークとその動作からインサイトを導き出します。Cisco DNA Center は、CSV や PDF などのいくつかの形式でデータをレポートします。Cisco DNA Center は、運用上のニーズを満たす柔軟なスケジューリングおよび設定オプションを提供します。詳細については、「[Reports](#)」を参照してください。



(注) すべての Cisco DNA Center レポートが PDF ファイル形式でサポートされているわけではありません。

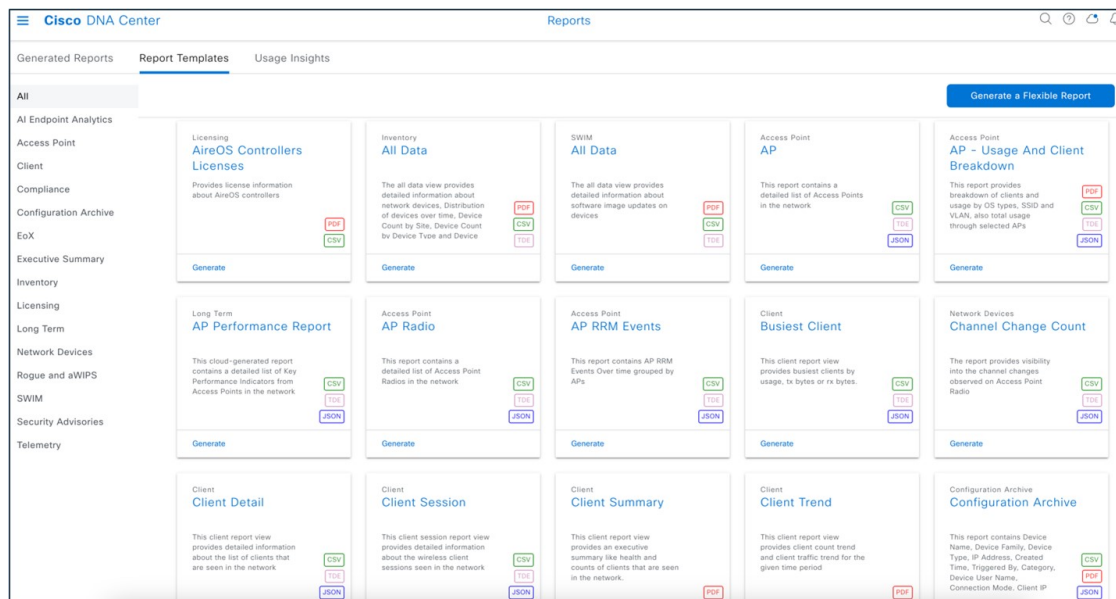
次の表では、Cisco Prime Infrastructure と Cisco DNA Center のレポートを比較しています。

機能	Cisco Prime Infrastructure	Cisco DNA Center
AP の概要	サポート対象	サポート対象



機能	Cisco Prime Infrastructure	Cisco DNA Center
AP の使用状況	サポート対象	サポート対象
クライアントセッション	サポート対象	サポート対象
クライアント数、クライアントの詳細	サポート対象	サポート対象
Cisco DNA Center の無線パフォーマンスおよび AP RF 品質/AP 無線レポート	サポート対象	サポート対象
インベントリ	サポート対象	サポート対象
ワイヤレス稼働時間、AP の概要	サポート対象	サポート対象
複合レポート、柔軟なレポート	サポート対象	サポート対象

次の図は、Cisco DNA Center の [Reports] ウィンドウを示しています。



次の図は、Cisco DNA Center で生成されるレポートを示しています。

Report Name	Schedule	Last Run	Reports	Format	Template Category	Report Template	Actions
Access Point Report - AP - Jul 10 2023 at 19:21	One-Time on Jul 10, 2023 at 7:25 pm	Expired	0	CSV	AP	AP	...
Access Point Report - AP - Usage and Client Breakdown - Jul 11 2023 at 12:13	One-Time on Jul 11, 2023 at 12:18 pm	Expired	0	PDF	AP	AP - Usage and Client Breakdown	...
Access Point Report - Worst Interferers - Jul 11 2023 at 19:50	One-Time on Jul 11, 2023 at 7:52 pm	Expired	0	CSV	AP	Worst Interferers	...
Executive Summary Report - Executive Summary - Jul 13 2023 at 10:35	One-Time on Jul 13, 2023 at 10:36 am	Expired	0	PDF	Executive	Executive Summary	...
Client Report - Client Session - Jul 14 2023 at 09:01	One-Time on Jul 14, 2023 at 9:10 am	Expired	0	CSV	Client	Client Session	...
Flexible Report - Jul 13 2023 at 10:46	One-Time on Jul 13, 2023 at 10:59 am	Expired	0	CSV	--	--	...

次の図は、Cisco Prime Infrastructure で生成されるレポート（[Reports] > [Reports] > [Scheduled Run Results]）を示しています。

Report Title	Report Type	Status	Message	Run Date/Time	Download	Virtual Domain
AP Utilization schedule 1	AP Utilization	✓	Saved to AP_Utilization_schedule_1_20230711_060830_291.pdf	11-Jul-2023, 06:08:36 UTC	Download icon	ROOT-DOMAIN
Ap-Summary-schedule	AP Summary	✓	Saved to Ap-Summary-schedule_20230711_063500_372.csv	11-Jul-2023, 06:35:01 UTC	Download icon	ROOT-DOMAIN
Client-traffic-report-1	Client Traffic	✓	Saved to Client-traffic-report-1_20230711_042851_604.pdf.zip	11-Jul-2023, 04:31:42 UTC	Download icon	ROOT-DOMAIN
Prime-Ap-Summary-1	AP Summary	✓	Saved to Prime-Ap-Summary-1_20230704_141446_839.pdf	04-Jul-2023, 14:14:50 UTC	Download icon	ROOT-DOMAIN
wireless-up-time	Wireless Up Time	✓	Saved to wireless-up-time_20230713_061500_215.pdf	13-Jul-2023, 06:15:01 UTC	Download icon	ROOT-DOMAIN

## ソフトウェアイメージの管理

Cisco DNA Center のソフトウェアイメージ管理（SWIM）プロセスでは、ソフトウェアアップグレードが管理され、ネットワーク全体のイメージバージョンと設定の一貫性が制御されます。SWIMにより、新しいソフトウェアイメージとパッチの導入が迅速化および簡素化されます。事前チェックと事後チェックにより、アップグレードによる悪影響がないことを確認できます。SWIMは、ソフトウェアイメージの中央リポジトリを構築してデバイスに適用する簡単な方法を提供します。管理者は、デバイスファミリのソフトウェアイメージをゴールデンとしてマークし、その後、リポジトリで定義されているゴールデンバージョンに従うソフトウェアイメージおよびパッチバージョンにデバイスをアップグレードします。Cisco DNA Center では、通常のイメージを管理するのと同じ方法で、インテントから事前チェックと事後チェックまでパッチがサポートされます。SWIMは、ソフトウェアメンテナンスアップデート、サブパッケージ、ROMMOM、AP サービスパック、および AP デバイスパックのアップグレードがベースイメージに適用されるタイミングを追跡します。

機能	Cisco Prime Infrastructure	Cisco DNA Center
SWIM のインストール前チェック	未サポート	サポート対象
ソフトウェアイメージの概要	サポート対象	サポート対象
イメージの追加/インポート	サポート対象	サポート対象
ゴールデンイメージ	未サポート	サポート対象

機能	Cisco Prime Infrastructure	Cisco DNA Center
イメージの配布	サポート対象	サポート対象
イメージのアクティブ化	サポート対象	サポート対象
変更を確定します。	サポート対象	サポート対象
最後の $n$ 個の SWIM ジョブ	サポート対象	サポート対象
SMU のサポート	未サポート	サポート対象
ROMMON のアップグレード	未サポート	サポート対象
SWIM のインストール後チェック	未サポート	サポート対象

Cisco DNA Center の SWIM には次の利点があります。

- SWIM ワークフローの一部として事前チェックと事後チェックを提供し、アップグレードの前後の違いを比較します。
- ネットワーク要件に基づいて show コマンドを選択するための完全な柔軟性とシンプルさを提供します。

Cisco DNA Center のソフトウェアイメージのアップグレードでは、[cisco.com](https://cisco.com) からイメージをインポートし、そのイメージをゴールデンとしてマークします。デバイスファミリまたは特定のデバイスロールに対するゴールデンソフトウェアイメージを指定することができます。デバイスロールは、ネットワーク内での役目と配置に従って、デバイスを識別およびグループ分けするために使用されます。

Image Name	Version	Devices	Advisories	Golden Image	Device Roles & Tags
C9800-40-universalk9_wic.17.03.07.SPA.bin	Amsterdam-17.3.7 (Suggested, Latest) Add On (N/A)	0	0 Critical, 1 High	⬇️	●
C9800-40-universalk9_wic.17.06.05.SPA.bin Verified	17.06.05.0.5797 (Suggested) Add On (N/A)	0	0 Critical, 0 High	☆	✏️
C9800-40-universalk9_wic.17.09.03.SPA.bin Verified	17.09.03.0.4111 (Suggested) Add On (N/A)	0	0 Critical, 0 High	☆	✏️
C9800-40-universalk9_wic.17.09.04.SPA.bin	Cupertino-17.9.4 (Latest) Add On (N/A)	0	0 Critical, 0 High	16% About 12 minutes left	●
C9800-40-universalk9_wic.17.11.01.SPA.bin	Dublin-17.11.1 (Latest) Add On (N/A)	0	0 Critical, 1 High	⬇️	●

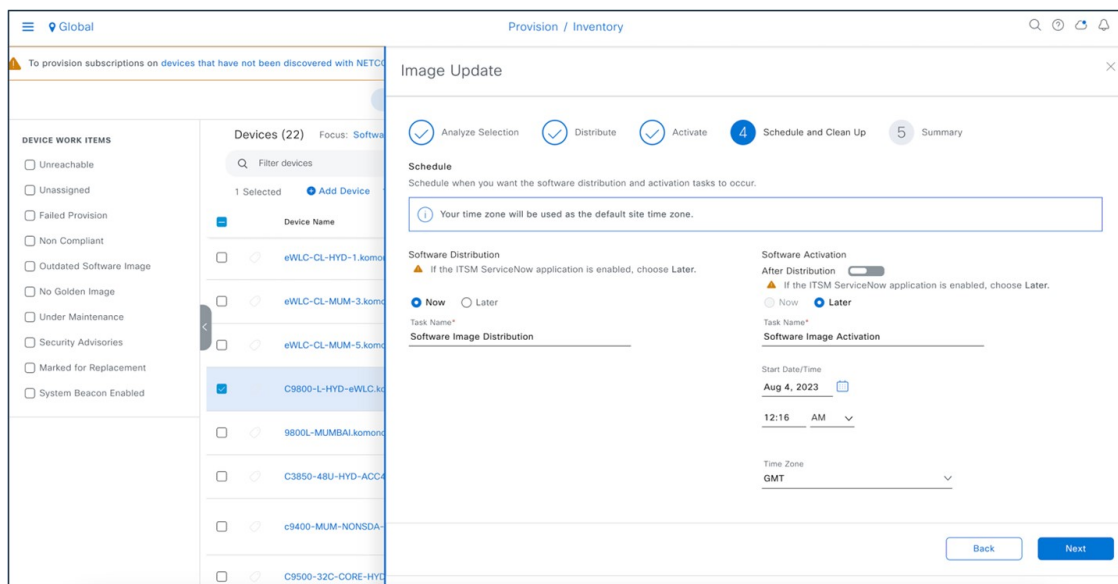
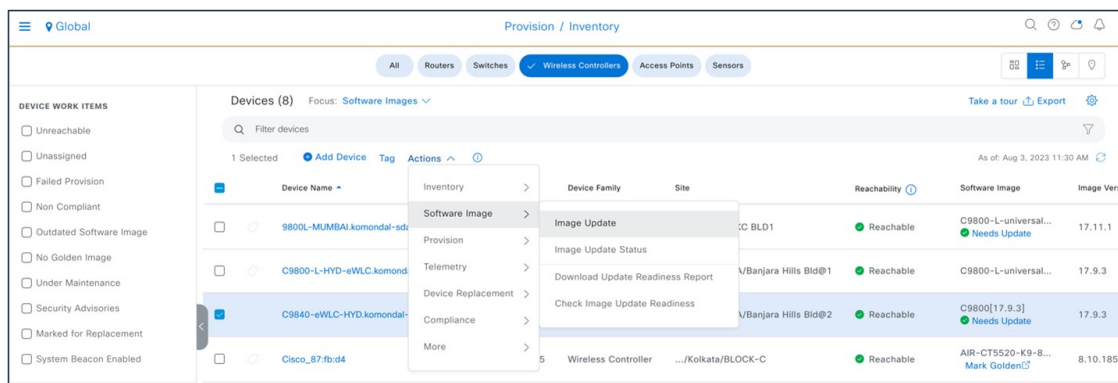
イメージのアップグレードを開始するために、Cisco DNA Center は、各デバイスのソフトウェアイメージを、その固有のデバイスタイプに対してゴールデンと指定したイメージと比較します。ソフトウェアイメージとゴールデンイメージが異なる場合、Cisco DNA Center はデバイスのそのソフトウェアイメージを無効とします。この場合、古いソフトウェアイメージを更新できます。

ソフトウェアイメージをデバイスにプッシュする前に、Cisco DNA Centerはデバイス管理ステータスの確認、ディスク容量の確認など、デバイスのアップグレード準備の事前チェックを実行します。事前チェックに失敗した場合は、ソフトウェアイメージのアップグレードを実行できません。デバイスのソフトウェアイメージをアップグレードする前に、問題を修正する必要があります。

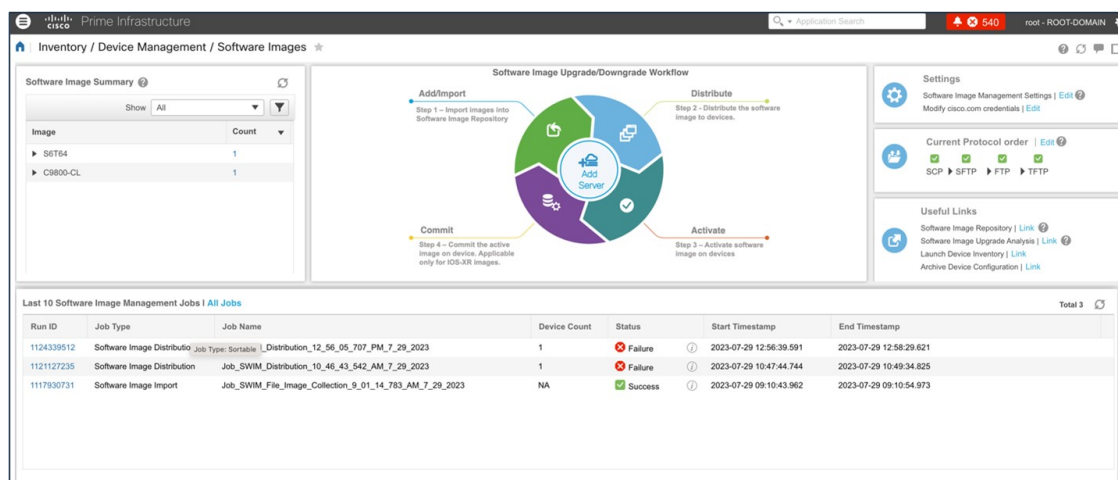
すべての事前チェックに成功したら、新しいイメージをデバイスに配信（コピー）し、有効化（新しいイメージを実行中のイメージにすることが）できます。新しいイメージの有効化には、デバイスの再起動が必要です。再起動によって現在のネットワークアクティビティが中断される可能性があるため、後でプロセスをスケジュールすることができます。

ソフトウェアイメージが正常にアップグレードされると、Cisco DNA CenterはCPU使用率、ルートサマリの確認などのアップグレードの事後チェックを実行し、ネットワークの状態が変更されていないことを確認します。

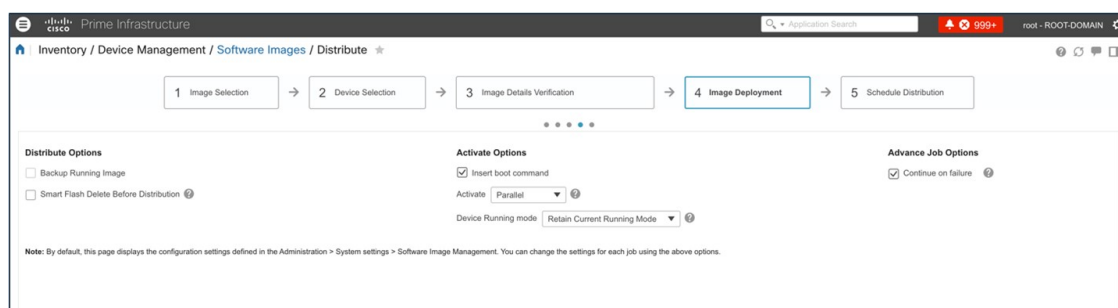
イメージのアップグレードを開始するには、**[Provision] > [Inventory] > [Select Device] > [Actions] > [Software Image] > [Image Update]** を選択します。



次の図は、Cisco Prime Infrastructure の SWIM ランディングページを示しています。



次の図は、Cisco Prime Infrastructure のイメージアップグレードを示しています。



Cisco DNA Center の SWIM の詳細については、「[Manage Software Images](#)」を参照してください。

## AP 設定ワークフロー

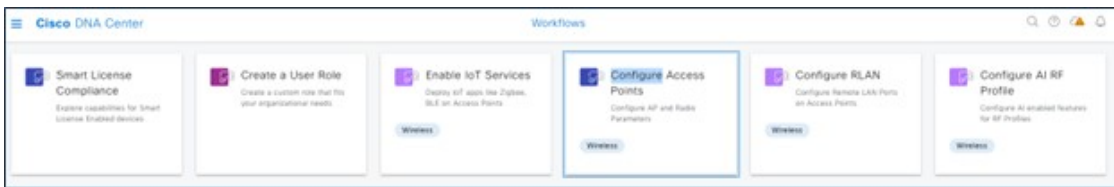
[Configure Access Points] ワークフローを使用すると、AP の場所、管理ステータス、モードなど、AP レベルのパラメータを設定および展開できます。無線電力レベル、チャンネル設定など、無線レベルのパラメータを設定もできます。

Cisco DNA Center の [Configure Access Points] ワークフローは、Cisco Prime Infrastructure の Lightweight アクセスポイント機能に似ています。

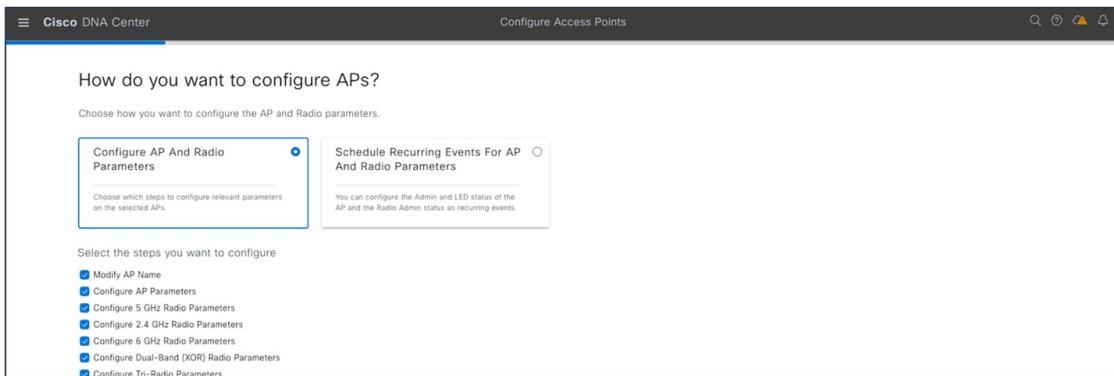
[Configure Access Points] ワークフローを使用して行われた次の設定は、ワイヤレスコントローラや AP が再プロビジョニングされても上書きされません。

- 無線の管理ステータス (Cisco AireOS ワイヤレスコントローラにのみ適用)
- AP のプライマリコントローラ
- AP のセカンダリコントローラ

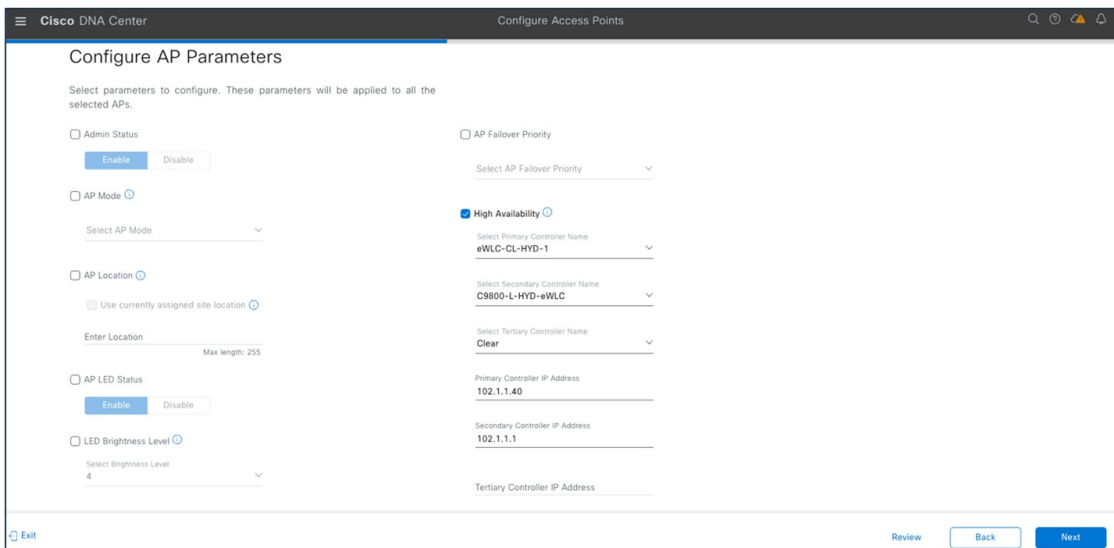
Cisco DNA Center で [Configure Access Points] ワークフローを起動するには、[Workflow] > [Configure Access Points] を選択します。



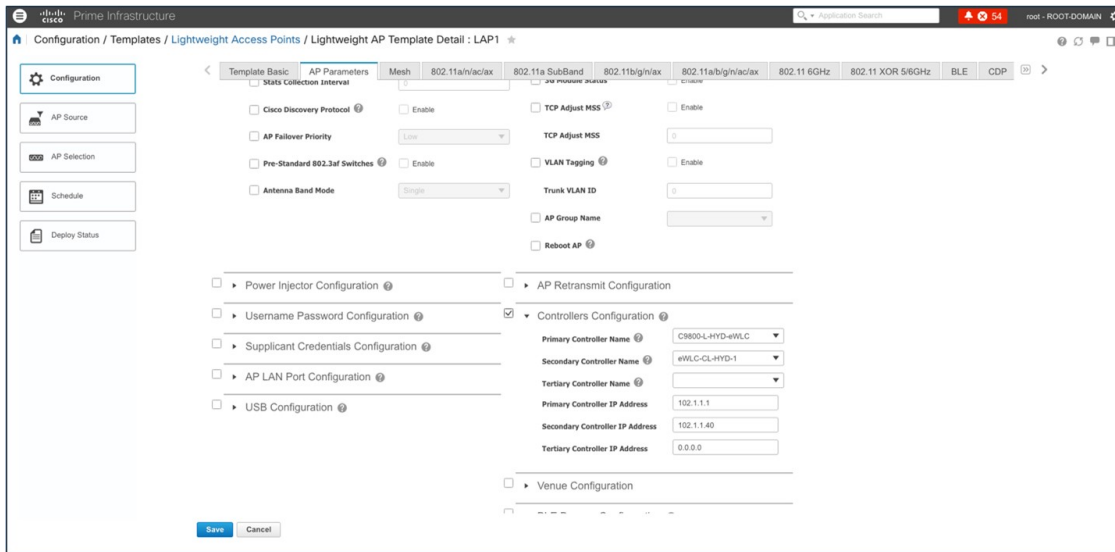
次の図は、設定するAP レベルのパラメータを示しています。



次の図は、HA の AP プライマリコントローラ名の変更を示しています。



Cisco Prime Infrastructure の Lightweight アクセスポイント機能を起動するには、**[Configuration] > [Template] > [Lightweight Access Points] > [AP Template Detail] > [LAP1]** を選択します。



詳細については、「[AP Configuration in Cisco DNA Center](#)」を参照してください。

## Cisco ISE および CMX の移行

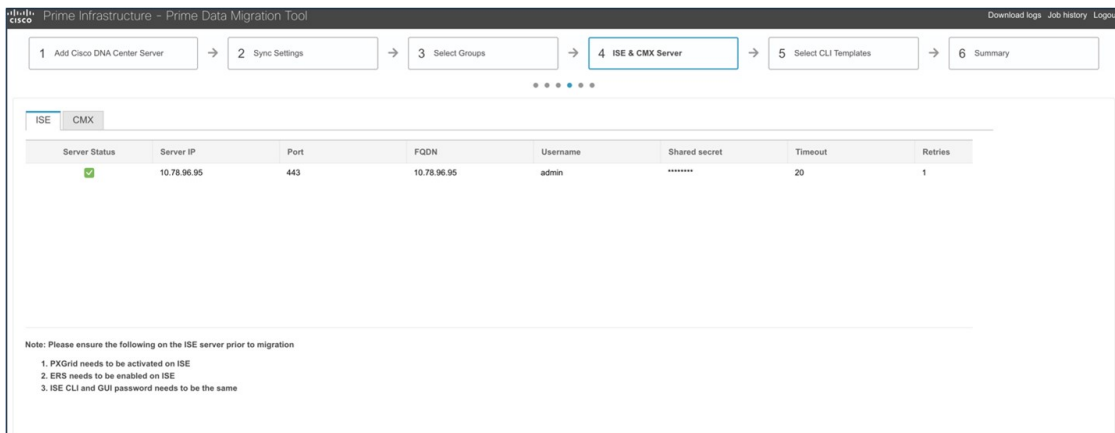
[Enable ISE settings] チェックボックスをオンにすると、Cisco ISE サーバーの詳細がプッシュされます。[Enable ISE settings] チェックボックスをオフにすると、Cisco ISE データは Cisco DNA Center サーバーにプッシュされません。

[Enable CMX settings] チェックボックスをオンにすると、CMX がフロアグループとともにプッシュされます。[Enable CMX settings] チェックボックスをオフにすると、CMX データは Cisco DNA Center サーバーにプッシュされません。

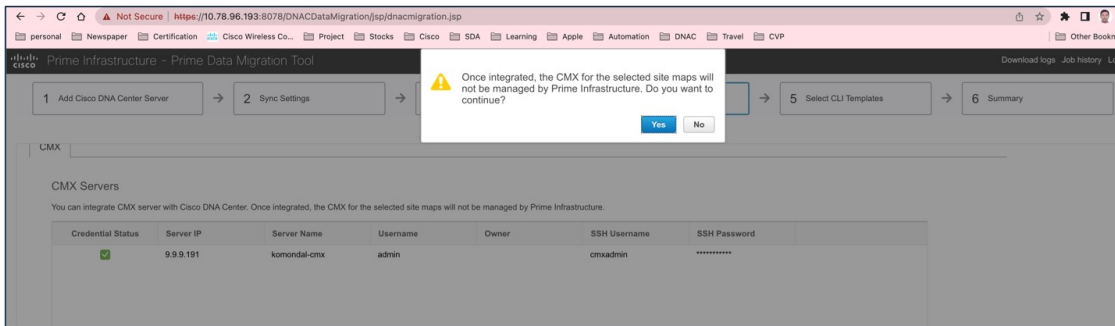
Cisco Prime Infrastructure – Cisco DNA Center 移行ツールがアクティブで、自動同期が有効になっている場合は、CMX が Cisco DNA Center フロアグループに動的にプッシュされ、Cisco DNA Center は割り当てられたグループのロケーションデータを追跡します。

CMX は、Cisco DNA Center に移行されると、Cisco Prime Infrastructure で管理されません。

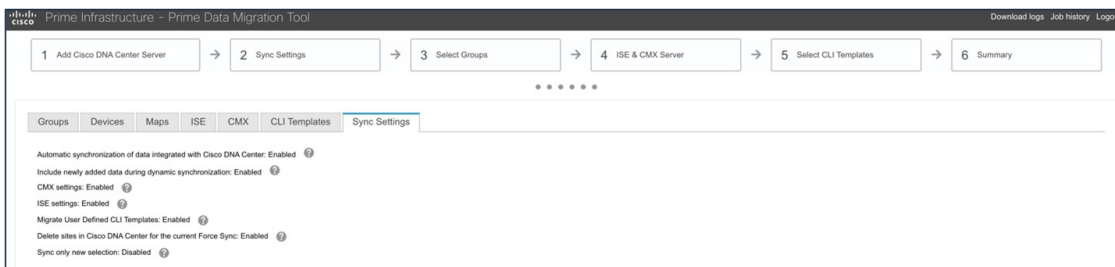
次の図は、移行のために PDMT で Cisco ISE の設定を有効にする方法を示しています。



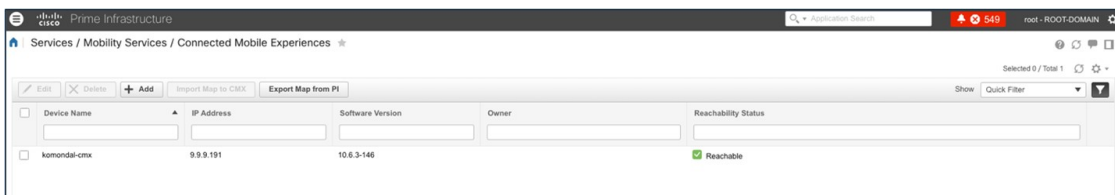
次の図は、移行のために PDMT で CMX の設定を有効にする方法を示しています。



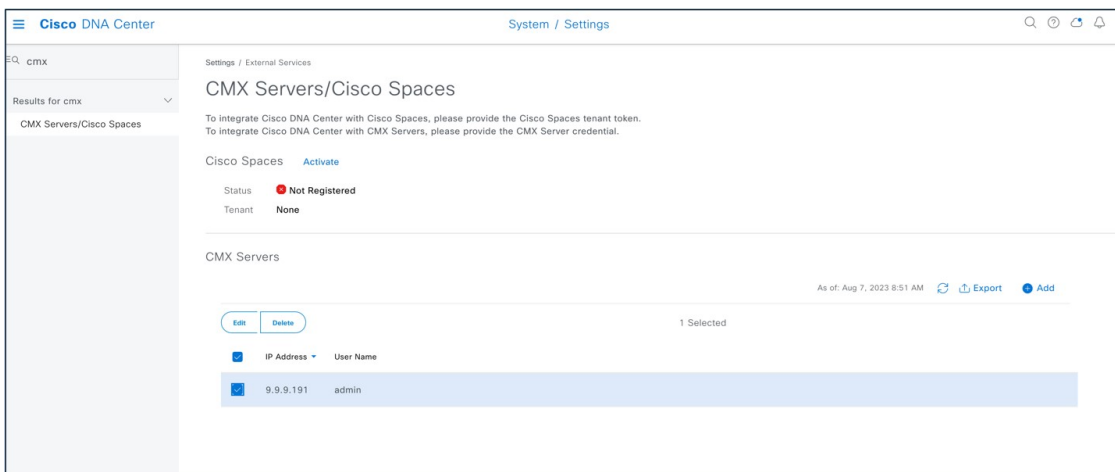
次の図は、動的同期と CMX の設定が有効になっている状態を示しています。



次の図は、移行前の Cisco Prime Infrastructure での CMX を示しています。

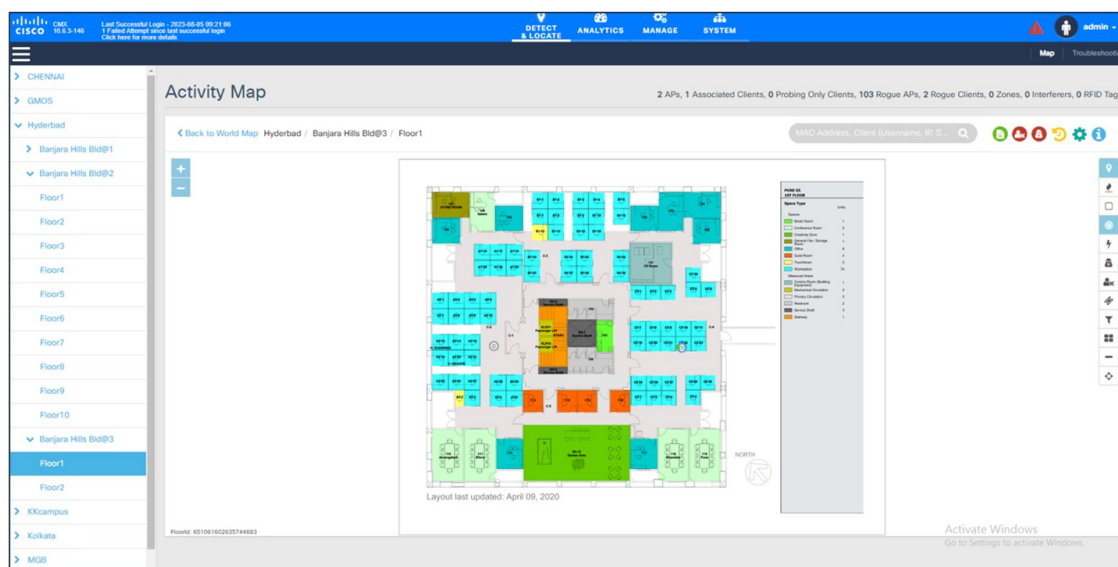


次の図は、Cisco DNA Center への移行後の CMX の設定を示しています。



次の図は、CMX でのフロアマップを示しています。





Cisco ISE を Cisco Prime Infrastructure から Cisco DNA Center に移行すると、Cisco ISE が障害状態で Cisco DNA Center に追加されます。これを回避するには、次の手順を実行する必要があります。

- Cisco ISE で pxGrid をアクティブにします。
- Cisco ISE で ERS を有効にします。
- Cisco ISE の CLI と GUI のパスワードが同じであることを確認します。

## ワイヤレスコントローラの HA とモビリティ

Cisco Catalyst 9000 シリーズワイヤレスコントローラでは、アクティブ/スタンバイ高可用性 (HA) ステートフルスイッチオーバー (SSO) ペアで設定する機能がサポートされています。Cisco DNA Center では、同じ OS バージョンを実行している同じモデルの 2 つのコントローラを取得し、HA SSO ペアとして設定する機能がサポートされています。

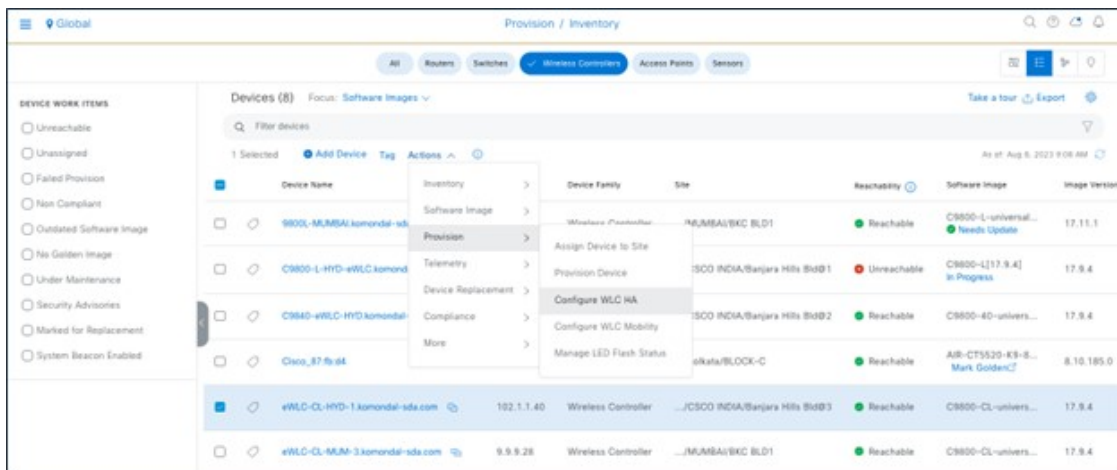
Catalyst 9800 シリーズワイヤレスコントローラの場合、Cisco DNA Center で設定する必要がある冗長管理 IP アドレスとピア冗長管理 IP アドレスは、実際には冗長ポートとピア冗長ポートの IP アドレスです。これらは、Catalyst 9800 シリーズワイヤレスコントローラの Web UI では、「ローカル IP アドレス」および「リモート IP アドレス」と呼ばれます。冗長ポートの IP サブネットは、Catalyst 9800 シリーズワイヤレスコントローラの他のインターフェイスとは別の IP サブネットである必要があります。また、プライマリとスタンバイの Catalyst 9800 シリーズワイヤレスコントローラは、冗長ポートに同じ IP サブネットを使用する必要があります。つまり、冗長ポート接続はレイヤ 2 接続またはバックツープックである必要があります。

ワイヤレスコントローラの HA とモビリティに Cisco DNA Center ベースの自動化を使用することには、次の利点があります。

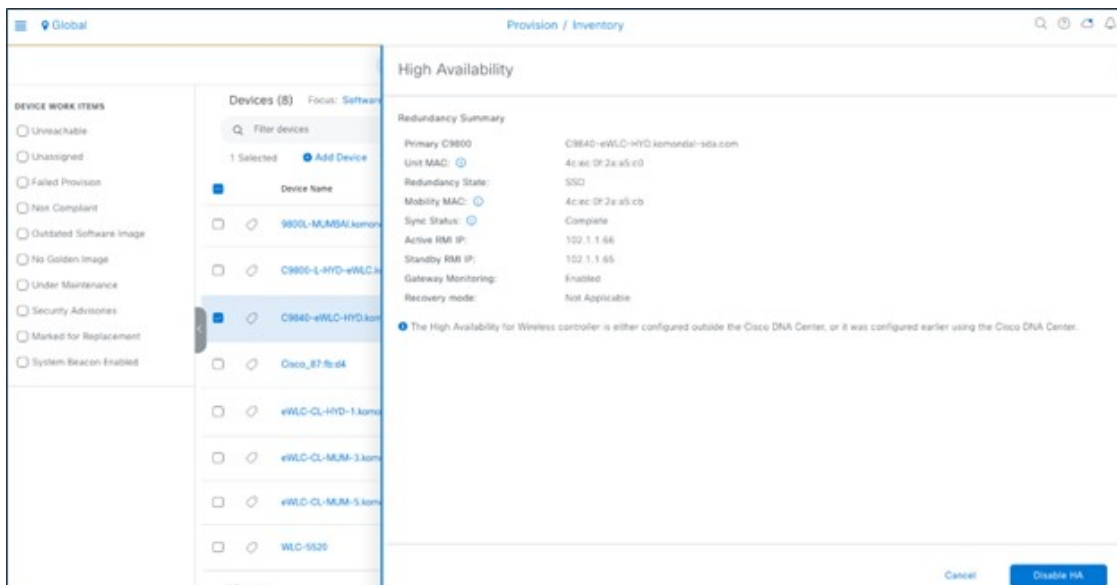
- ワイヤレスコントローラの HA を有効または無効にする自動ワークフロー
- モビリティトンネルを有効または無効にする自動ワークフロー

## 手順

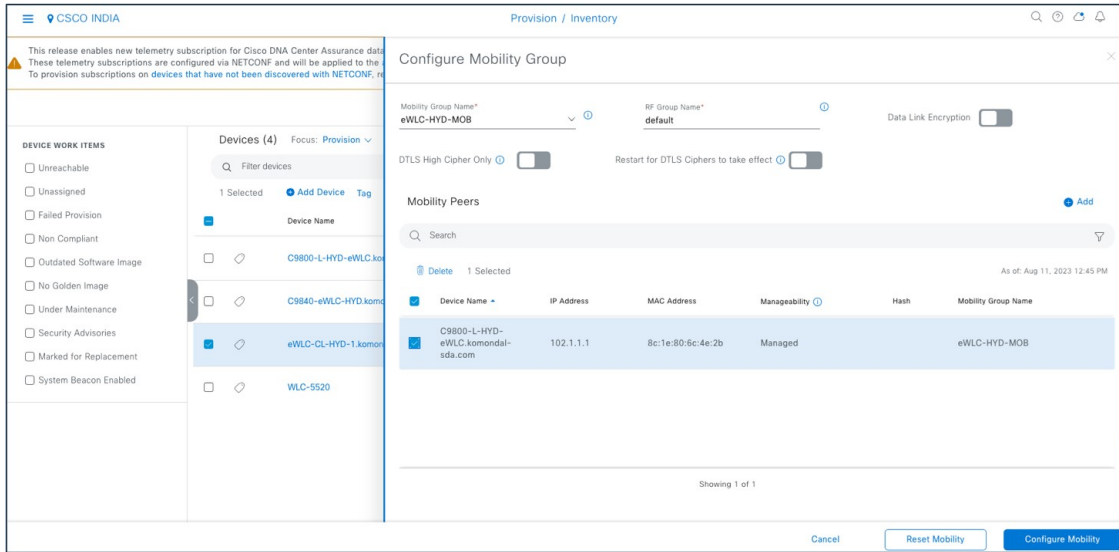
ステップ1 Cisco DNA CenterでワイヤレスコントローラのHAまたはモビリティトンネルを設定するには、**[Provision]>[Inventory]>[Select Controller]>[Actions]>[Provision]>[Configure WLC HA]**を選択します。



ステップ2 ワイヤレスコントローラのHAを無効にするには（HAがすでにプロビジョニングされている場合）、**[Disable HA]**をクリックします。



ステップ3 モビリティグループを設定またはリセットするには、**[Provision]>[Inventory]>[Select Controller]>[Actions]>[Provision]>[Configure WLC HA]**を選択します。



詳細については、『[Catalyst 9800 Non-Fabric Deployment using Cisco DNA Center](#)』を参照してください。

## インテリジェントキャプチャ

インテリジェントキャプチャ (ICAP) は、シスコの最先端のインテントベース ネットワーキング ソリューションです。ICAP は、クライアントと AP の両方の観点から、さまざまなワイヤレスメトリックに関するリアルタイムの技術的インサイトを提供します。これにより、最も困難なワイヤレスの問題でも簡単に解決できるようになります。

ICAP は、Cisco DNA Center と AP の間の直接通信リンクをサポートします。Cisco DNA Center はこのチャンネルを使用して、パケットキャプチャ (PCAP) データ、AP とクライアントの統計情報、およびスペクトルデータを受信できます。gRPC を介した AP から Cisco DNA Center への直接リンクにより、ICAP では、ワイヤレスコントローラからは入手できない AP のデータにアクセスできます。

Cisco DNA Center の ICAP は、次の表に示す機能をサポートしています。

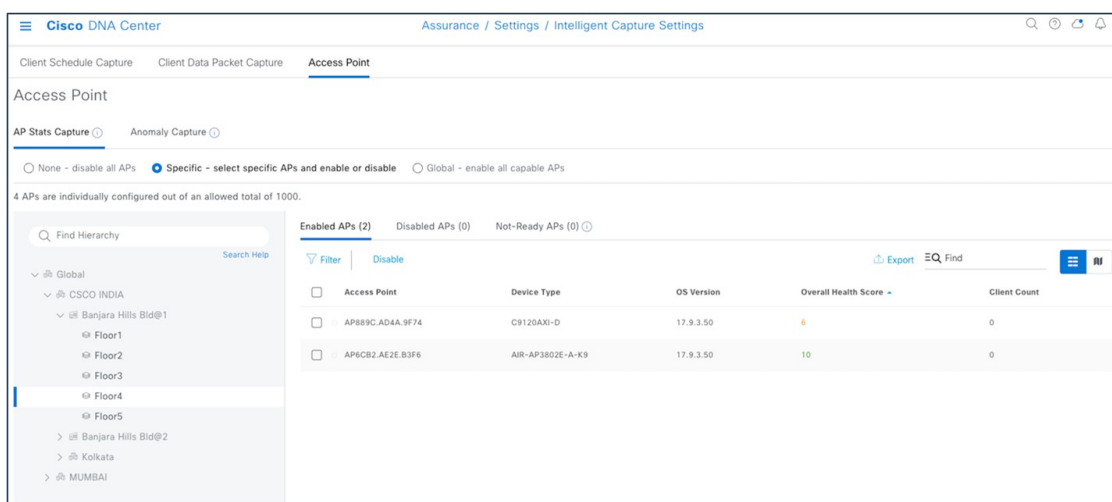
Cisco DNA Center の機能の名前	ワイヤレスコントローラと AP の機能の名前
データパケットキャプチャ	[Full Packet Capture]
ライブキャプチャ	部分的なパケットキャプチャ クライアントフィルタ処理
AP 統計のキャプチャ	AP WLAN 統計 AP RF 統計 クライアント RF の統計

Cisco DNA Center の機能の名前	ワイヤレスコントローラと AP の機能の名前
異常統計のキャプチャ	異常検出 異常パケットのキャプチャ 異常の個別レポート 異常の概要レポート
スペクトラム解析	スペクトラム解析

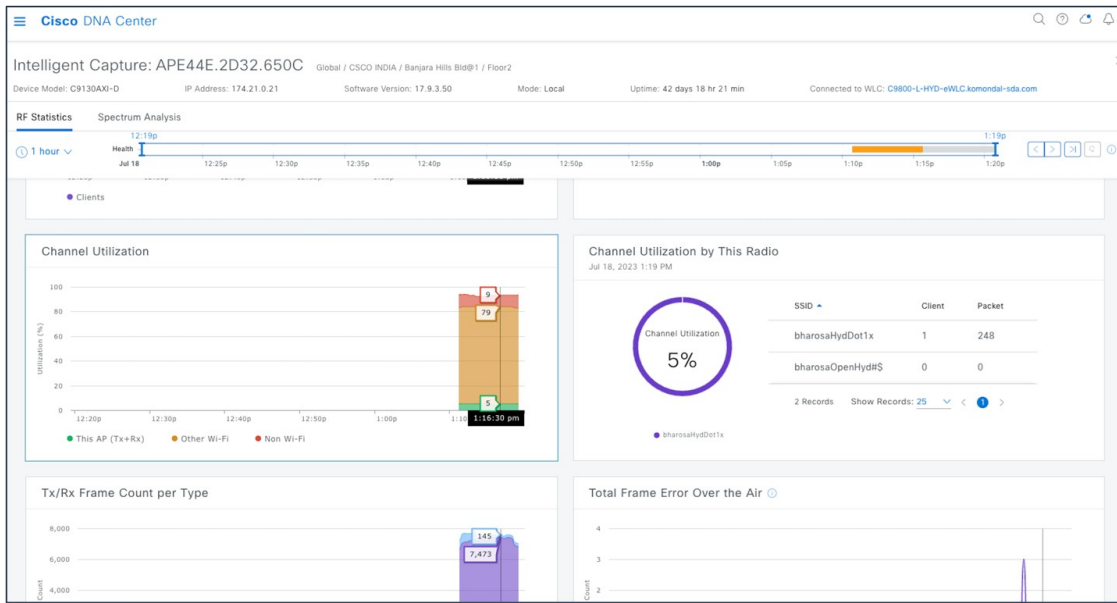
詳細については、『Cisco Intelligent Capture Deployment Guide』を参照してください。

## 手順

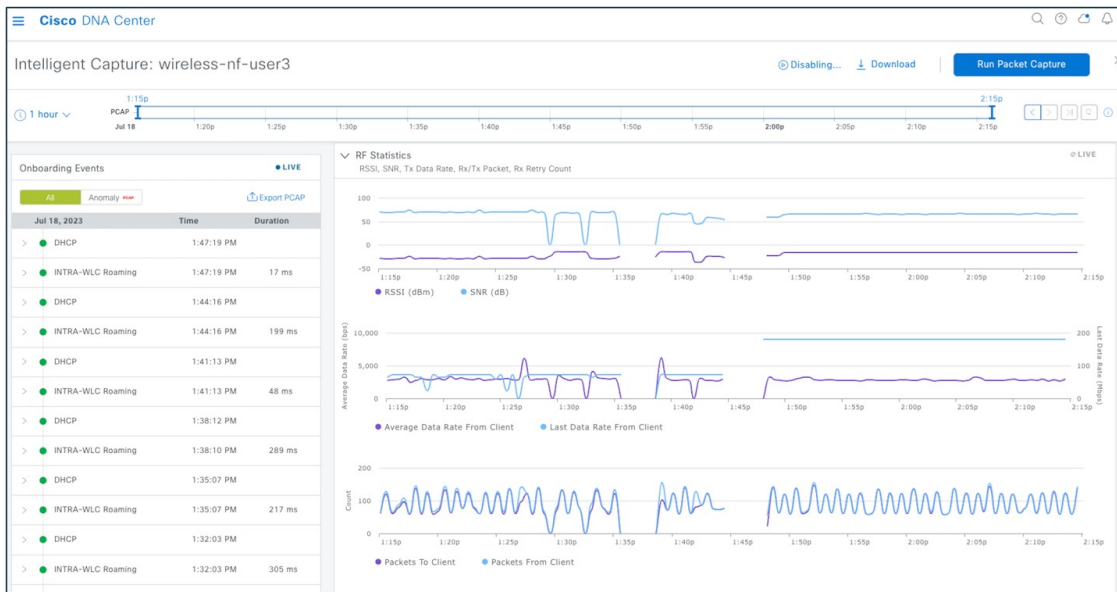
**ステップ 1** ICAP を使用した AP 統計のキャプチャを有効にするには、[Assurance] > [Settings] > [Intelligent Capture Settings] > [Access Points] > [AP Stats Capture] > [Enable AP] を選択します。



**ステップ 2** AP キャプチャを開始します。



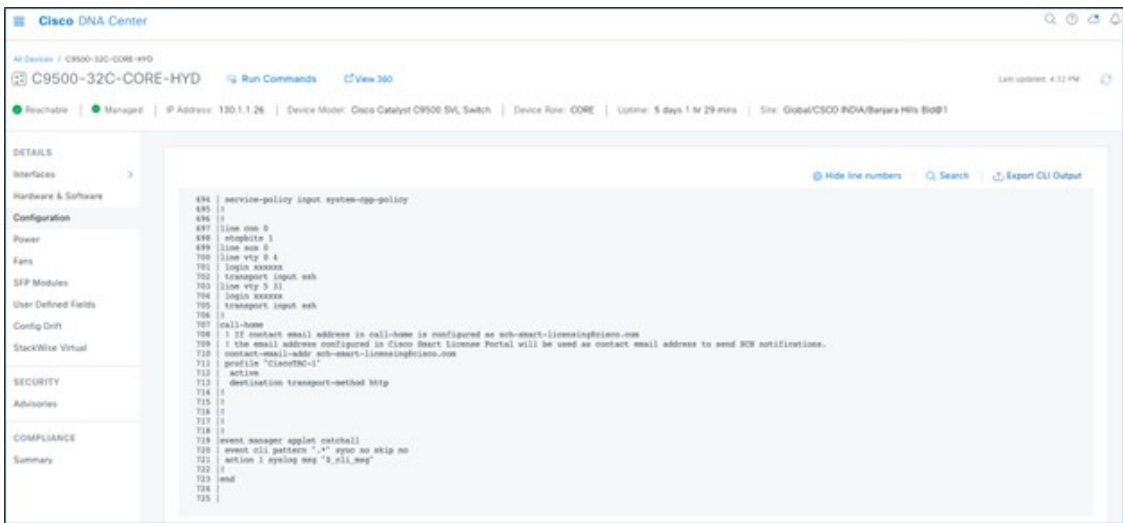
ステップ3 クライアント ICAP キャプチャを開始します。



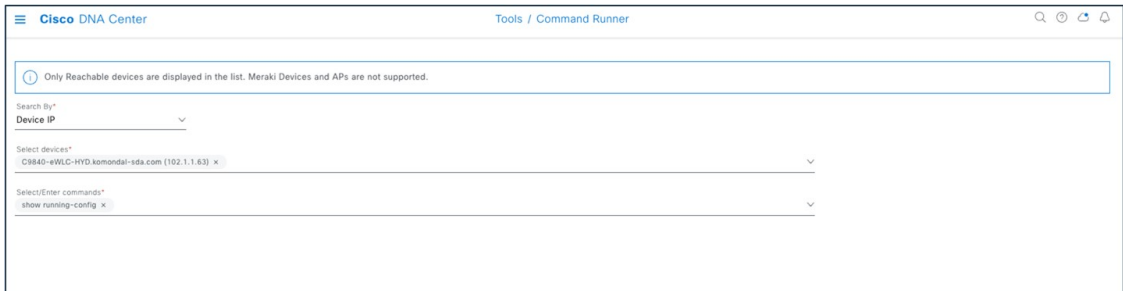
## コンフィギュレーションアーカイブ

Cisco DNA Center は、設定アーカイブ機能を使用して、最新のデバイス設定を内部データベースに保存します。デバイスの設定は、新しいデバイスが Cisco Prime Infrastructure に追加され、定期的なトリガーまたはイベントベースのトリガーによって更新されるとアーカイブされます。イベントベースのトリガーは、設定に変更があると発生します。

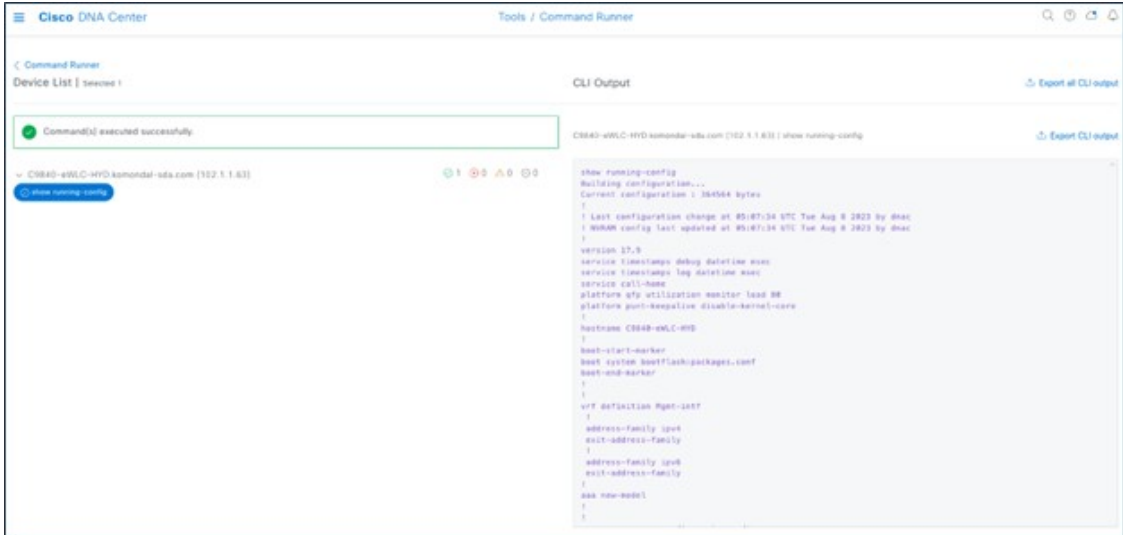
Cisco DNA Center は、スイッチのデバイス設定をインベントリからエクスポートし、CLI 出力をエクスポートします。



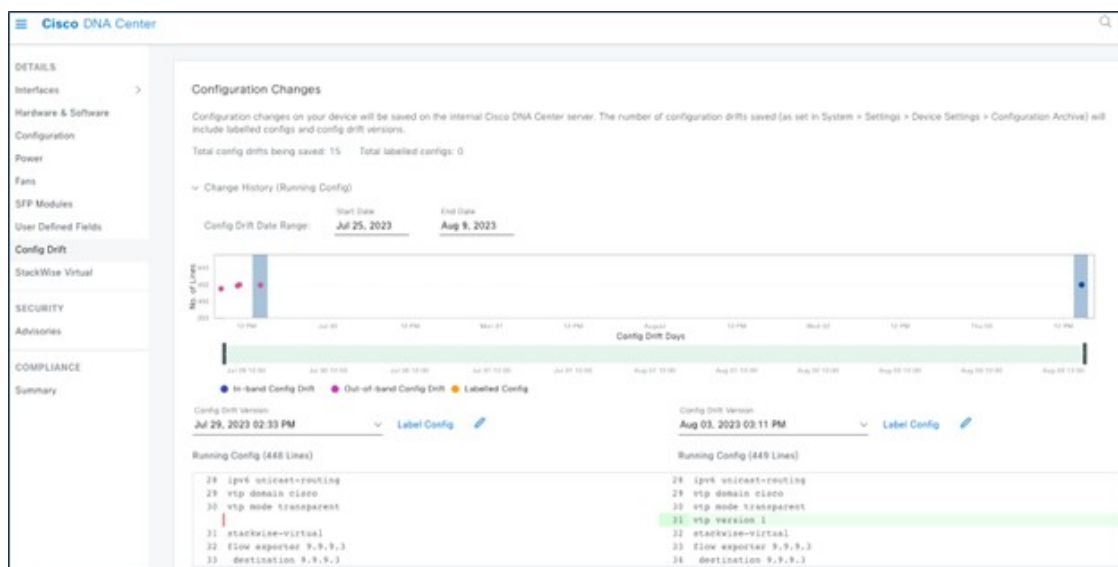
Cisco DNA Center は、コマンドランナーを使用して、Catalyst 9800 ワイヤレスコントローラの実行中の設定をエクスポートします。



Cisco DNA Center は、ワイヤレス設定をエクスポートします。



設定ドリフトを使用して、ドリフトバージョン間の設定の違いを確認します。



設定を内部サーバーと外部サーバーにアーカイブします。

System / Settings

Settings / Device Settings

**Configuration Archive**

Cisco DNA Center internal server will periodically back up your device's running configuration. You can select the day and time for the backup and select the total number of config drifts being backed up (note: total config drifts being saved included all the labelled configs for the device). To archive all the device's running configurations, you can configure an external server.

Internal    External

External Repository    As of: Aug 12, 2023 11:22 PM

Host	Protocol	User Name	Backup Format	Backup Cycle	Connectivity	Action
10.78.96.247	SFTP	admin	RAW	None Time: 04:28 PM	Connected	

Cisco Prime Infrastructure は、アーカイブの概要を維持します。

Device Name	IP Address	Date	Created By	Tag	Description	Software Version	Out Of Band
C1850-48U-HYD-ACC-4	1.1.1.5	June 30, 2023, 08:59:31 PM India Std	Inventory		Initial version	16.12.8	No
C1850-24P-KOL-KONSDA-2	1.2.1.3	June 30, 2023, 08:05:38 PM India Std	Inventory		Initial version	17.11.20230221.158...	No
C1850-24P-HYD-ACC-1	1.1.1.2	June 30, 2023, 08:57:03 PM India Std	Inventory		Initial version	17.9.3	No
C1850-24P-HYD-ACC-5	1.1.1.4	June 30, 2023, 08:57:24 PM India Std	Inventory		Initial version	17.9.3	No
C1850-48P-KOL-KONSDA-1	1.2.1.2	June 30, 2023, 08:04:39 PM India Std	Inventory		Initial version	17.9.3	No
C1850-48P-PUNE-ACC-1	1.3.1.2	June 30, 2023, 08:41:52 PM India Std	Inventory		Initial version	17.11.1	No
C1850-48U-HYD-ACC-2	1.1.1.3	June 30, 2023, 08:57:03 PM India Std	Inventory		Initial version	17.9.3	No
C1850-512K-HYD-ACC-3	1.1.1.8	June 30, 2023, 08:57:25 PM India Std	Inventory		Initial version	17.11.1	No
C1850-24P-CHN-ACC-1	1.4.1.2	June 30, 2023, 08:11:22 PM India Std	Inventory		Initial version	17.9.3	No
C1850-CORE-CHENNAI	130.1.1.40	June 30, 2023, 08:07:05 PM India Std	Inventory		Initial version	17.9.3	No
C1850-16u-PUNE-CORE	130.1.1.84	June 30, 2023, 08:10:12 PM India Std	Inventory		Initial version	17.11.1	No
C1850-24G-CORE-KOL	130.1.1.10	June 30, 2023, 08:13:54 PM India Std	Inventory		Initial version	17.9.3	No
C1850-32G-CORE-HYD	130.1.1.26	June 30, 2023, 08:14:47 PM India Std	Inventory		Initial version	17.9.3	No
C1850-L-HYD-eWLC-komonda...	102.1.1.3	August 04, 2023, 08:09:25 AM India S	Inventory		Initial version	17.9.4	No
C1850-L-HYD-eWLC-komonda...	102.1.1.1	August 07, 2023, 08:20:14 AM India S	Inventory		Initial version	17.9.4	No
C1850-eWLC-HYD-komonda...	102.1.1.63	July 31, 2023, 05:44:39 PM India Std	Inventory		Initial version	17.9.3	No
Class: 87-8u-8d	101.1.1.29	July 25, 2023, 06:42:54 AM India Std	Inventory		Initial version	8.10.185.0	No

Cisco Prime Infrastructure は、デバイス設定をエクスポートします。

Running Configuration: eWLC-CL-HYD-1.komonda-sda.com

Processed Configuration | Raw Configuration

1. Last configuration change at 05:54:46 UTC Tue Aug 8 2023 by drac  
 1. NVRAM config last updated at 05:33:42 UTC Tue Aug 8 2023 by drac

version 17.9  
 service timestamps debug datetime msec  
 service timestamps log datetime msec  
 service call-home  
 platform efp utilization monitor load 80  
 platform punt-keepalive disable kernel-core  
 platform console vtytel

hostname eWLC-CL-HYD-1  
 boot-start-marker  
 boot system flash bootflash:packages.conf  
 boot-end-marker

aaa new-model  
 aaa group server radius prime-radius-group  
 server name prime-radius

Configuration Archive Collection Time: August 8, 2023 5:59:14 AM UTC

Note:  
 • All the sensitive information such as password, SNMP community string will be masked in both Processed Configuration and Raw Configuration.  
 • If you want to view sensitive information such as password, SNMP community string, export the configuration using Unsanitized option.

Export Close

## 移行後の Cisco Prime Infrastructure からのデバイスの削除

ワイヤレス自動化および Cisco DNA Center アシュアランスに Cisco Prime Infrastructure を使用していない場合、Cisco Prime Infrastructure を完全に削除するには、次の2つのワークフローを確認してください。

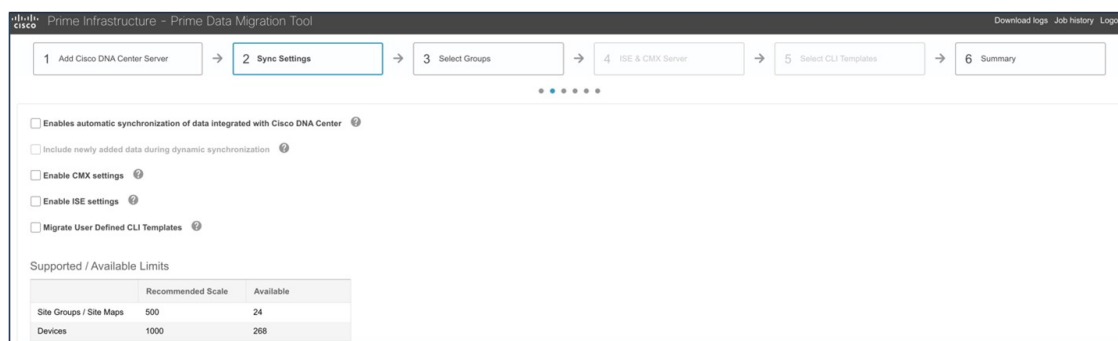
### 強制同期が有効な場合

強制同期が有効になっている場合、Cisco Prime Infrastructure からデバイスの削除を開始すると、デバイスは Cisco Prime Infrastructure から削除されますが、Cisco DNA Center のインベントリからは削除されず、Cisco DNA Center がアシュアランスに使用されます。

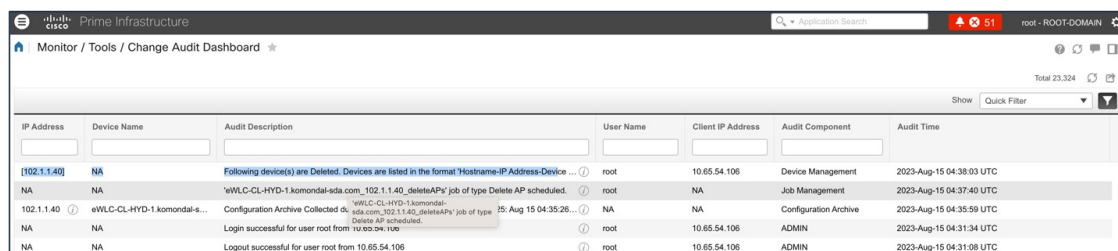


(注) Cisco Prime Infrastructure からデバイスを削除する前に、PDMT で動的同期が無効になっていることを確認します。

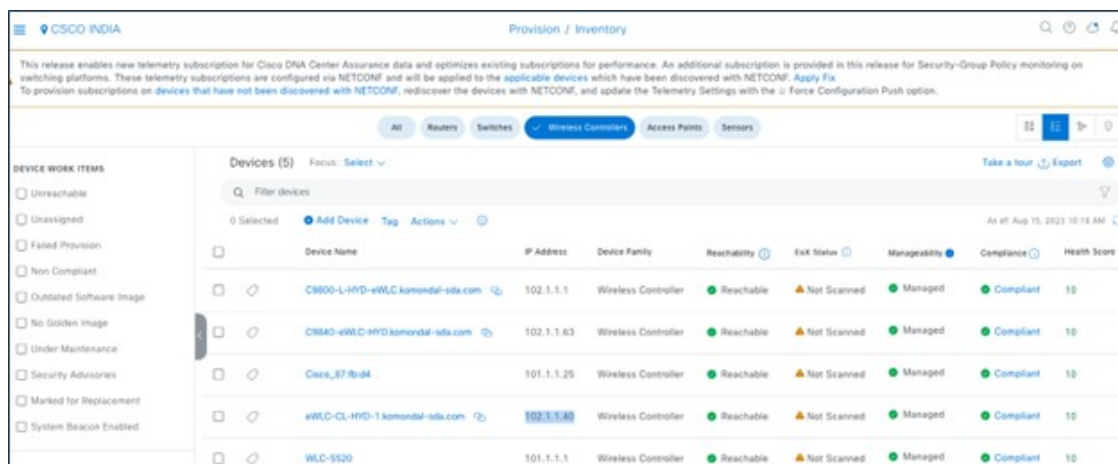




デバイスの削除は、Cisco Prime Infrastructure から開始されます。



デバイスは Cisco DNA Center のインベントリにそのまま残ります。



移行後にデバイスが Cisco Prime Infrastructure から削除されると、Cisco Prime Infrastructure のテレメトリ サブスクリプションが削除され、テレメトリ接続が確立されます。

### 動的同期が有効な場合

動的同期が有効になっている場合、Cisco Prime Infrastructure からデバイスの削除を開始すると、デバイスが Cisco Prime Infrastructure のインベントリから削除され、動的同期によって Cisco DNA Center のインベントリからのデバイスの削除がトリガーされます。



(注) Cisco Prime Infrastructure と Cisco DNA Center のすべてのテレメトリ サブスクリプションがクリアされていることを確認します。

Cisco Prime Infrastructure のインベントリからデバイスを削除すると、Cisco DNA Center からのデバイスの削除が始まります。

IP Address	Device Name	Audit Description	User Name	Client IP Address	Audit Component	Audit Time
NA	NA	INVENTORY: Device delete from 10.78.96.39 successful for device: 101.1.1.25	SYSTEM	127.0.0.1	DNACSync	2023-Jul-26 06:24:16 UTC
[101.1.1.25]	NA	Following device(s) are Deleted. Devices are listed in the format 'hostname-IP Address-Device ...'	root	10.142.80.70	Device Management	2023-Jul-26 06:23:43 UTC
[102.1.1.1]	CS9800-L-HYD-eWLC.komond...	CLI Commands : #CommandTag"protocol-netconf.separated=true" #ConfigurationBlockStart[...]	NA	NA	CONFIG	2023-Jul-26 06:19:29 UTC
102.1.1.1	CS9800-L-HYD-eWLC.komond...	CLI Commands : #CommandTag"protocol-netconf.separated=true" #ConfigurationBlockStart[...]	NA	NA	CONFIG	2023-Jul-26 06:19:28 UTC

次の図は、Cisco DNA Center からのデバイスの削除を示しています。

Device Name	IP Address	Device Family	Reachability	Ex Status	Manageability	Compliance	Health Score	Site
CS9800-L-HYD-eWLC.komondal-sda.com	102.1.1.1	Wireless Controller	Reachable	Not Scanned	Managed	Compliant	10	.../CSDC INDIA/Bar

現時点では、Cisco DNA Center からデバイスを削除しても、Cisco DNA Center のテレメトリ サブスクリプションは削除されません。

ワイヤレスコントローラ の設定からすべてのテレメトリ サブスクリプションを削除するには、次のコマンドを入力します。

```
WLC#term shell
WLC#function removeall() {
for id in `sh run | grep telemetry | cut -f4 -d' '`
do
conf t
no telemetry ietf subscription $id
exit
done
}
WLC#removeall
```

詳細については、「[Delete All Telemetry Subscriptions from the WLC Configuration](#)」を参照してください。

## 規模とパフォーマンス

次の表に、PDMT 移行で使用される規模を示します。

エンティティ	Amount
建物とフロアマップを含むサイト	450
有線デバイス	1000
テンプレート	100
AP	2500
ワイヤレスコントローラについて	4
ワイヤレスクライアント数	10,000

Cisco Prime Infrastructure の VM フットプリント	Cisco DNA Center	時間の長さ
16 vCPU 24 GB の RAM 1.2 TB HDD	44 コアアプライアンス DN2-HW-APL	1 時間、48 分

[Cisco Prime Infrastructure usage summary for migration] :

Usage details

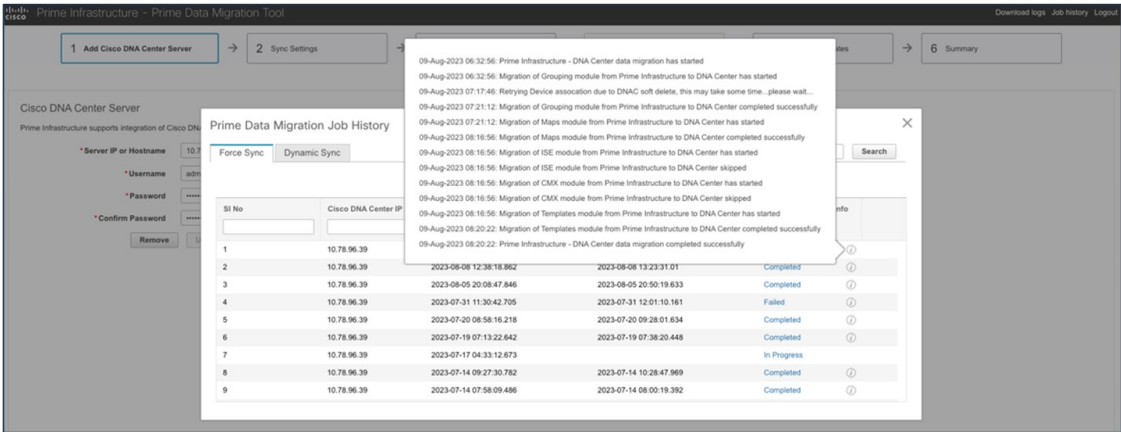
Recommended 500  
Selected for Migration 468  
Available 24

Recommended 1000  
Selected for Migration 877  
Available 116

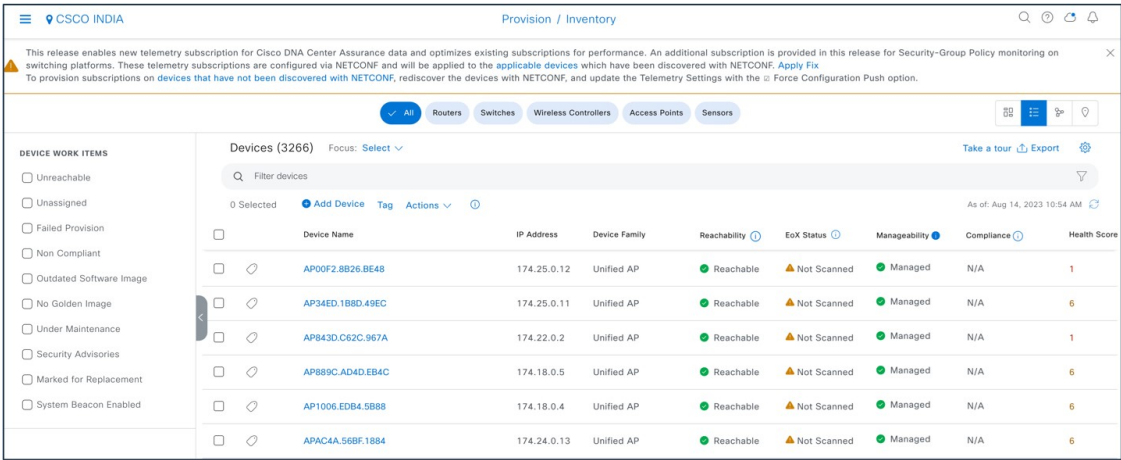
Group Movement Log

PI Group Hierarchy	Cisco DNA Center Group Hierarchy	Status
Location\All Locations\Campus-1	Global\CSO INDIA\Campus-1	Marked for migration
Location\All Locations\Hyderabad	Global\CSO INDIA\Hyderabad	Marked for migration
Location\All Locations\GMOS	Global\CSO INDIA\GMOS	Marked for migration
Location\All Locations\KKcampus	Global\CSO INDIA\KKcampus	Marked for migration
Location\All Locations\Kolkata	Global\CSO INDIA\Kolkata	Marked for migration
Location\All Locations\MSB	Global\CSO INDIA\MSB	Marked for migration
Location\All Locations\Pune	Global\CSO INDIA\Pune	Marked for migration
Location\All Locations\Pune BLD1	Global\CSO INDIA\Pune BLD1	Marked for migration
Location\All Locations\Pune BLD2\Floor2	Global\CSO INDIA\Pune BLD2\Floor2	Marked for migration

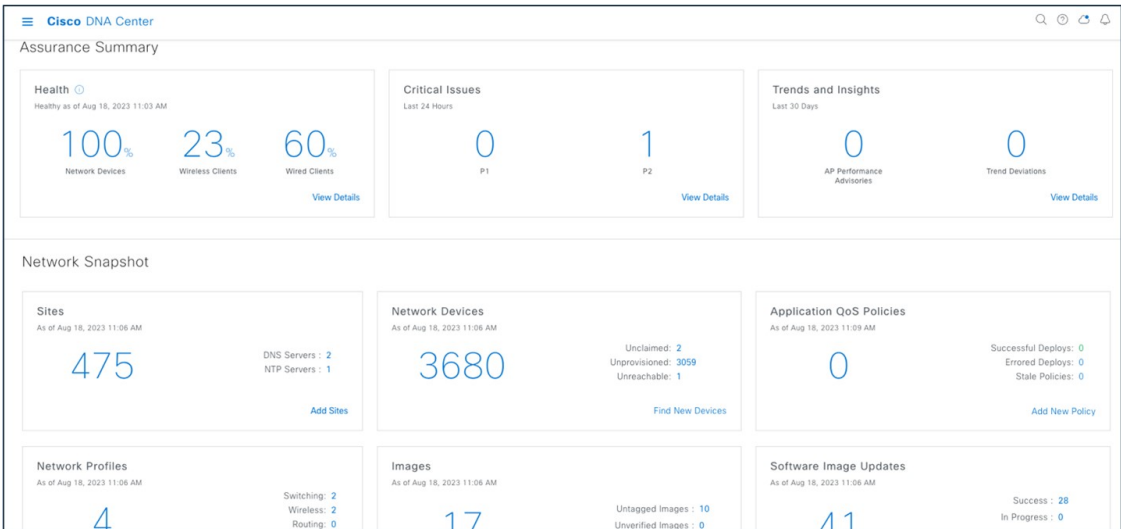
[Migration time taken] :



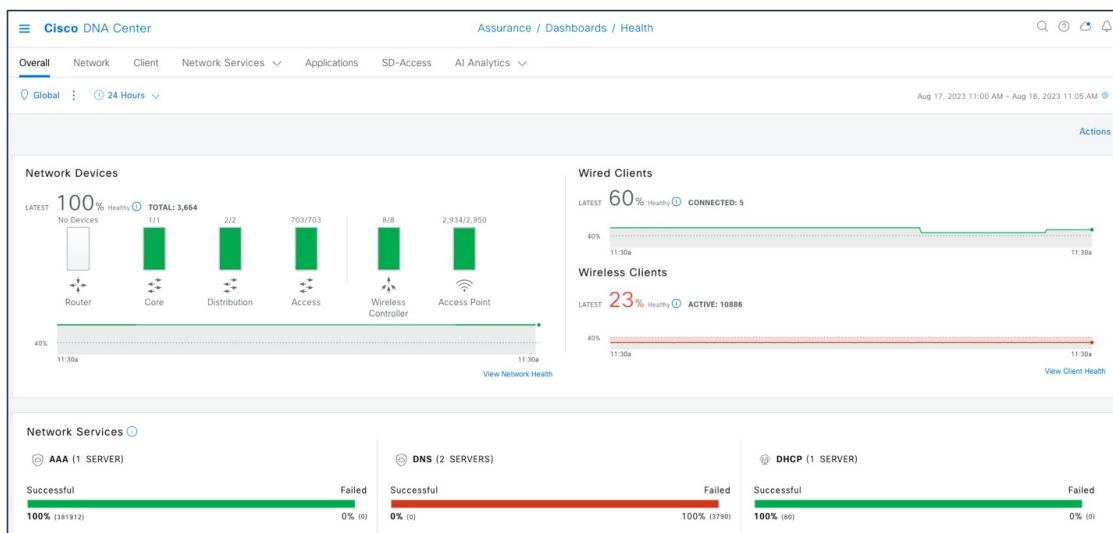
[Cisco DNA Center inventory after migration] :



[Cisco DNA Center dashboard after migration] :



[アシュアランス dashboard after migration] :



## ロードマップと参考資料

このガイドの最新バージョンでは、Cisco Prime 共存モデルに焦点を当てています。このモデルでは、Cisco Prime Infrastructure はネットワークの自動化とプロビジョニングに使用され、Cisco DNA Center はアシュアランスとモニタリングに使用されます。このガイドの今後の改訂では、Cisco DNA Center でデバイス設定を学習し、Cisco DNA Center でネットワーク自動化機能を適用するユースケースについて説明する予定です。これらのユースケースにより、Cisco Prime Infrastructure から Cisco DNA Center への完全な移行が可能になり、最終的には Cisco Prime Infrastructure を Cisco DNA Center に置き換えて、エンタープライズネットワークを完全に管理できます。

Cisco Prime Infrastructure から Cisco DNA Center への移行の詳細については、次の参考資料を参照してください。

- 『[Cisco Prime Infrastructure to Cisco DNA Center Prime Data Migration Guide](#)』
- 『[Cisco Intelligent Capture Deployment Guide](#)』
- 『[Catalyst 9800 Non-Fabric Deployment Using Cisco DNA Center](#)』
- [Cisco DNA アシュアランス User Guide](#)
- [Cisco DNA Center User Guide](#)

Cisco and the Cisco logo are trademarks or registered trademarks of Cisco and/or its affiliates in the U.S. and other countries. To view a list of Cisco trademarks, go to this URL: <https://www.cisco.com/c/en/us/about/legal/trademarks.html>. Third-party trademarks mentioned are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (1721R)

© 2023–2024 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.

【注意】 シスコ製品をご使用になる前に、安全上の注意（[www.cisco.com/jp/go/safety\\_warning/](http://www.cisco.com/jp/go/safety_warning/)）をご確認ください。本書は、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。また、契約等の記述については、弊社販売パートナー、または、弊社担当者にご確認ください。

©2008 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.

Cisco, Cisco Systems, およびCisco Systemsロゴは、Cisco Systems, Inc.またはその関連会社の米国およびその他の一定の国における登録商標または商標です。

本書類またはウェブサイトに掲載されているその他の商標はそれぞれの権利者の財産です。

「パートナー」または「partner」という用語の使用はCiscoと他社との間のパートナーシップ関係を意味するものではありません。(0809R)

この資料の記載内容は2008年10月現在のものです。

この資料に記載された仕様は予告なく変更する場合があります。



#### シスコシステムズ合同会社

〒107-6227 東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー

<http://www.cisco.com/jp>

お問い合わせ先：シスコ コンタクトセンター

0120-092-255（フリーコール、携帯・PHS含む）

電話受付時間：平日 10:00～12:00、13:00～17:00

<http://www.cisco.com/jp/go/contactcenter/>

## 翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。